

次ページへ続く

Continued on next page...

影印改編・博愛堂集古印譜

島 渡 原 泰 雄  
 原 辺 守 邦

目 次

凡例……………123

第一卷 御璽之部……………125

    自叙……………127

    凡例……………129

    目録……………131

第二卷 大政官印之部……………143

第三卷 八省諸寮印之部……………155

第四卷 諸国印并倉印……………175

第五卷 諸郡印之部……………217

第六卷 外衛印之部……………229

第七卷 神社印之部……………237

第八卷 寺院印之部……………251

    解題……………285

    編者手沢本「総目録」……………290

——以下前号——

第九卷 私印之部……………105

第一〇卷 武将将帥印之部……………121

第一一卷 藏経書印之部……………135

第二二卷 諸家所蔵印之部……………165

第二三卷 烙印之部……………187

    附録 外国印同鈕図……………193

    跋文……………215

凡 例

一、長谷川延年編『博愛堂集古印譜』全一三巻の影印である。

一、底本に、国立国会図書館所蔵の編者手沢本(別9/12)を用いた。

この伝本は、一五巻一四冊のほか、別巻として「総目録」一冊が添えられている。

一、底本の別巻「総目録」は、第一四・一五巻の増補部を分解して、全一三巻に仕立て直そうとする意図に発したものである、編者自ら

による訂正、加除の書込みがある。その指示に従って、配列を改めた。「改編」と冠する所以である。

一、「総目録」に漏れた印影を、各巻終りに一括した。

一、底本は、原則として一面に一印を配し、余白を充分にとつて、印譜としての雅致を保っているが、それを、紙幅の節約を計って追込みにした。

一、印影を原寸で掲げた。ただしマイクロ・フィルムによる復元であるところから、寸法に厳密を期すことができてない。

一、単色印刷なので、印色を復元するすべがない。底本の印色を、白ぬき文字により、印影に添えた。ただし、朱色は煩を嫌って略した。

一、底本には、印影ごとに、印名（印影右肩に表示）、採取資料・所蔵者等に関する注記、考証（以上余白に表示）が、延年の自筆により記されている。それを活字で組んだ。これもスペース節約のためである。

一、それらの記事は、「総目」あるいは重複印に記されるところを勘案して、適宜不備を補った。たとえば「同」とある場合、直前の項にしたがって、必要な文字をうめることくに、である。

一、序文（延年自叙）、凡例、目録（以上第一巻所収）、国印一覽（第四巻所収）および各巻扉を等倍で影印した。

一、各巻、一印ごと新たに洋数字による一連番号を与え、整理の便とした。

一、今回、第八巻までの上・中編を載せた。これで前回分と合せて完結する。前半後半の掲載が逆になったことに、さしたる意味はないが、

しいて言えば、前回分に蔵書印が多く、国文学文献資料とのかかわりが多かったゆえである。

一、内閣文庫蔵本のみにある二印を、今回の影印に等倍で添えた（〇ページ）。これは本来は第九巻または第一一巻に収めるべきものである。

一、別巻「総目録」を縮小して影印した。

一、書誌を中心とした解題を添えた。

一、「妙心寺」印（巻八七〇）は底本で見開き両面にノドを隔てて押捺され、若干のずれがあつて、完全にはつながらない。それゆえこの影印では、あえて間隔を置いた。

追記 影印に当り、底本の使用許可を与えられた国立国会図書館、参考図版の掲載許可を与えられた国立公文書館内閣文庫、伝本調査に当ってお世話になった神宮文庫、都立中央図書館に、お礼申しあげる次第である。

なお、編者長谷川延年に関する水田紀久氏の論考二編が『日本家刻史論考』（青裳堂書店 昭60）に収録された。

博愛堂集古印譜第一

御璽之部

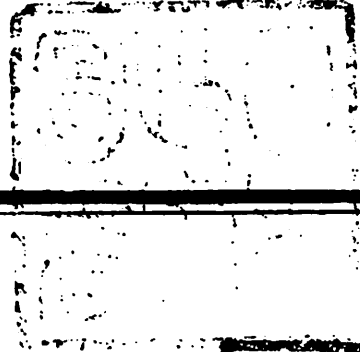
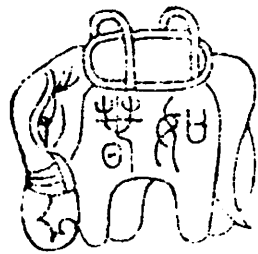
長谷川延年摹鑄

博愛堂藏書

淺草文庫印

鍼灸聚英所印

淺州文庫



天保十一年

曹山文庫

自叙

僕古乎慕乃餘。且鍊筆乃技乎好。五年頃摹貯太留者乃多。奈留乎者。徒尔祕置。牟與利波止。甚類乎十阿末利三尔。别底。世尔弘為万欲止。抑上波懸卷茂惶支。

御璽乎初止志底。八省諸官諸罔諸郡。或波神社佛刹奈止乃印。或波其名乃美殘礼留類。亦高貴乃人々波更奈利。世尔聞多留人乃。都底世尔傳利多留乎波。輯多留尔奈牟。又他乃罔乃印乎茂。卷乃末尔加倍底。其殊

自餘  
奈留乎毛知志牟留尔許曾。固故人等乃以  
前著世留者乎波本止志互。東尔需西尔搜  
互。彼此乎增加倍底。若干乃卷止波成多留  
奈礼波。聊毛私乃意乎不用志底。唯其舊乎  
不失止乃美思倍止。其技乃拙乎如何世牟。  
亦其傳乃今不明毛有止毛。其傳礼留万々  
世利。看人幸尔勿恠止云爾。

安政四季丁巳秋

藤原守真

博愛堂集古印譜

凡例

一皇朝古印譜有數種藤惺窩先生所輯古印摹本  
一卷源孺皮所輯古印摹本一卷此二書今多不  
傳藤貞幹因此二書校訂增補著集古印譜一卷  
敢不示人故不遍世又有公私古印譜一卷其他  
集古十種印章部若干卷穗井田忠友所輯埋麝  
發香一卷源嵩年所輯古印集一卷騰駕摹鑄有  
少異同耳又有吉田氏所輯聆濤閣印譜五卷即  
今悉採各部所載之者集輯而無遺漏矣



一法隆寺鶻寺等之印及其他現存于世者務雖摹其真至古摹本則傳寫或殊互有精粗之異似有誤寫而今不可考者暫存舊矣

一古人私印者近世掘地而所獲者甚多其中印文不可讀者亦多矣間又世所謂有似神代文字者今皆不可考則俟他日識者之考耳

一凡諸摹印或以石摸或用木最務要寫真然皆歷歲久遠自然剝蝕以致缺損材又有銅錢之別故所以不能同也鑒者宜諒察之焉

楓洞山人長延年再識

博愛堂集古印譜

○目錄

- |     |       |     |       |
|-----|-------|-----|-------|
| 第一  | 御璽    | 第二  | 太政官印  |
| 第三  | 八省諸寮印 | 第四  | 諸國并倉印 |
| 第五  | 郡并郷印  | 第六  | 外衛印   |
| 第七  | 神社印   | 第八  | 寺院印   |
| 第九  | 私印    | 第十  | 武將印   |
| 第十一 | 藏經書印  | 第十二 | 諸家藏印  |

第十三 烙印

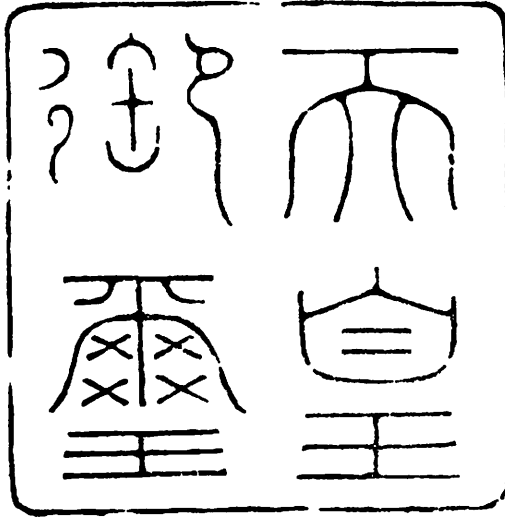
附錄

外國印

今印鈕圖

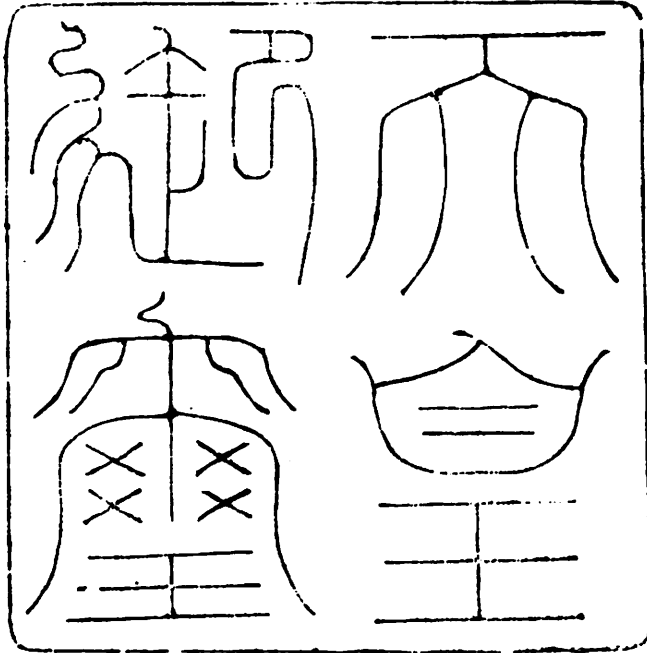
内印

1 天皇御璽



大宝三年七月廿日勅書所印  
 按公式令曰内印方三寸諸司印方二寸二分此以禊令所謂小尺者  
 言之也皆是以晋前尺度合太政官印大学寮印共方二寸二分也

2 天皇御璽



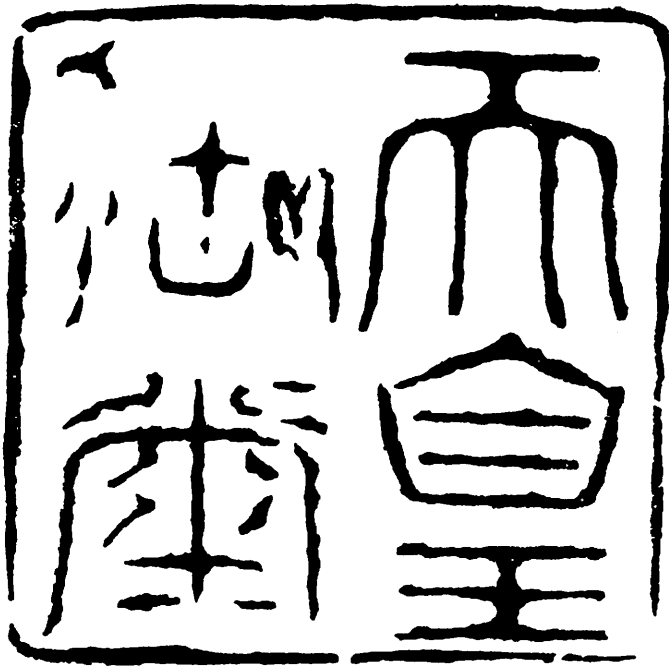
天平勝宝八年七月八日天平宝字四年七月廿三日以上勅書所印

3 延曆勅定璽



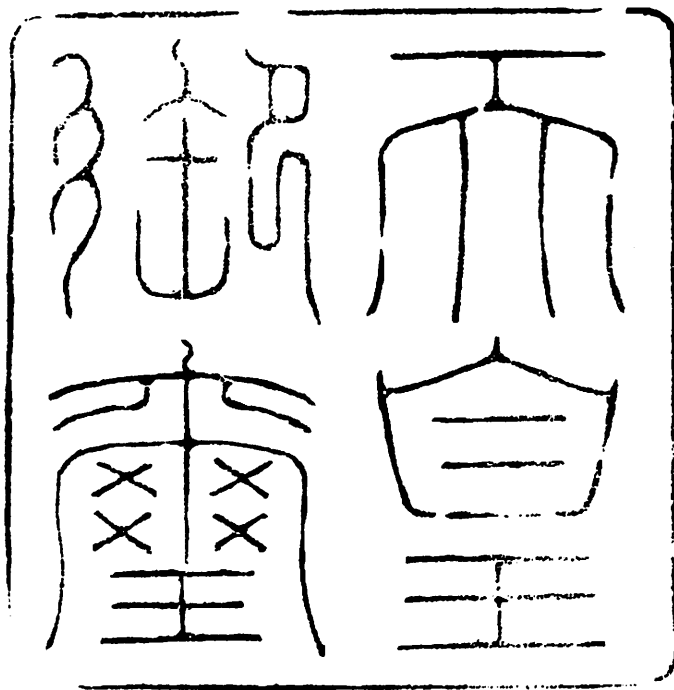
桓武天皇御府  
晋王羲之尺牘所捺

4 天皇御璽



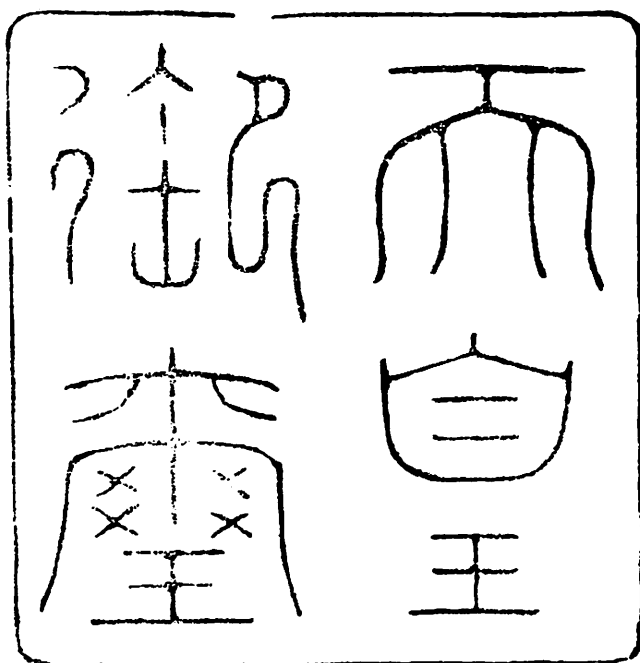
嘉祥三年六月十六日勅書所用

5 天皇御璽

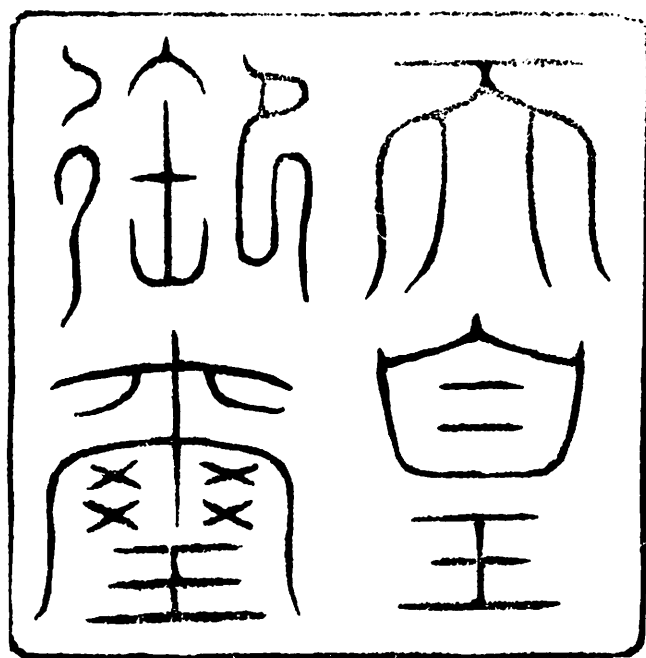


延長四年二月十七日民部省符保延六年十一月十九日官符所用  
宗直朝臣摹本

6 天皇御璽



宗直朝臣摹本

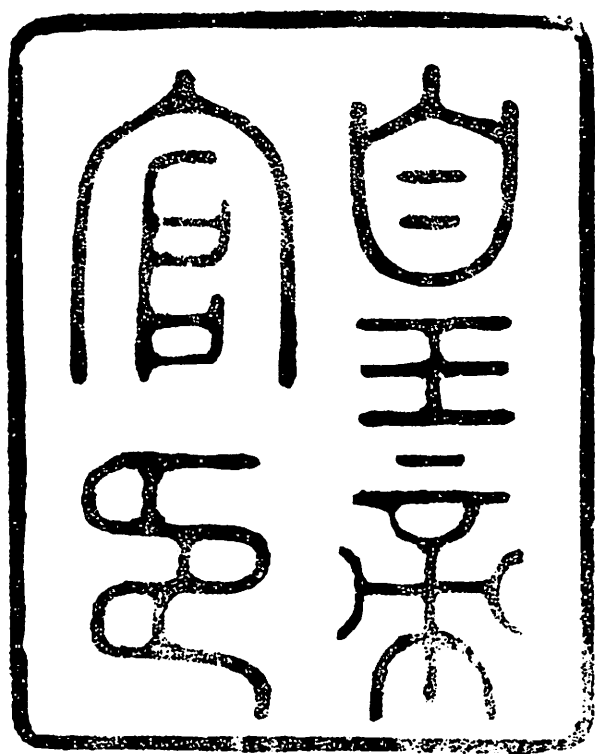




長寛三年白馬節会官符所捺  
東福寺藏与治部省牒同  
山川正宣所藏

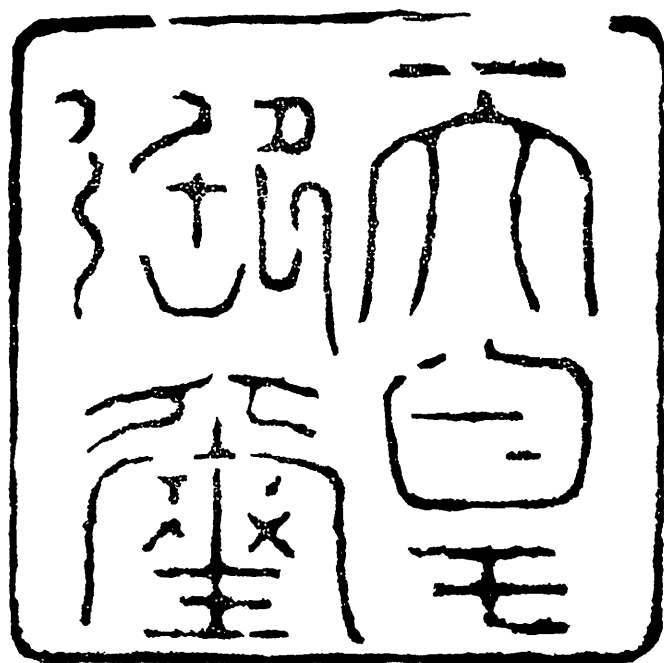


9 皇帝官印



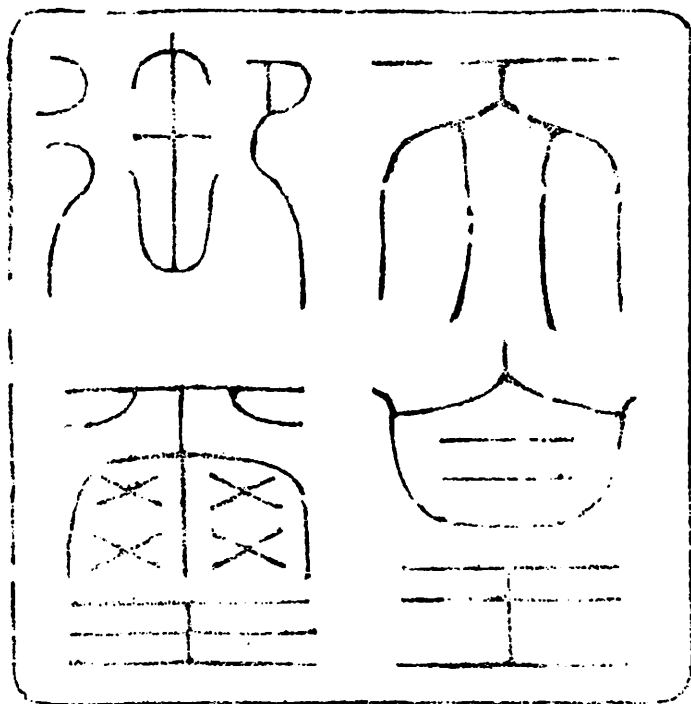
承久元年十月廿日治部省牒  
僧円爾度牒所用  
東福寺藏

10 天皇御璽



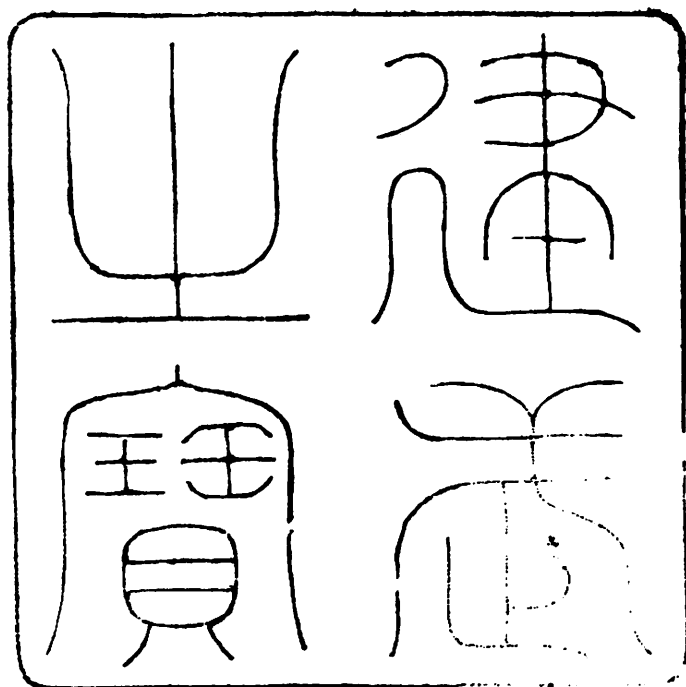
承安二年二月廿八日太政官符所捺  
芸州巖島神庫藏

11 天皇御璽



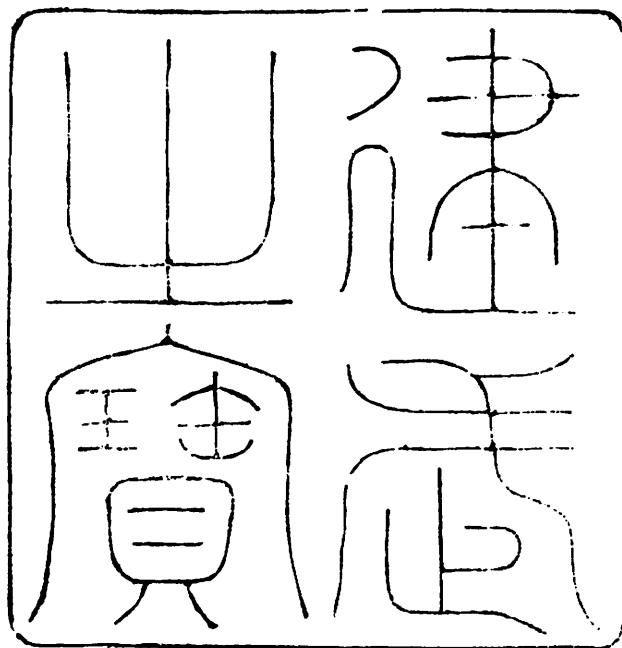
建武元年勅書所用 古摹本

12 建武之宝



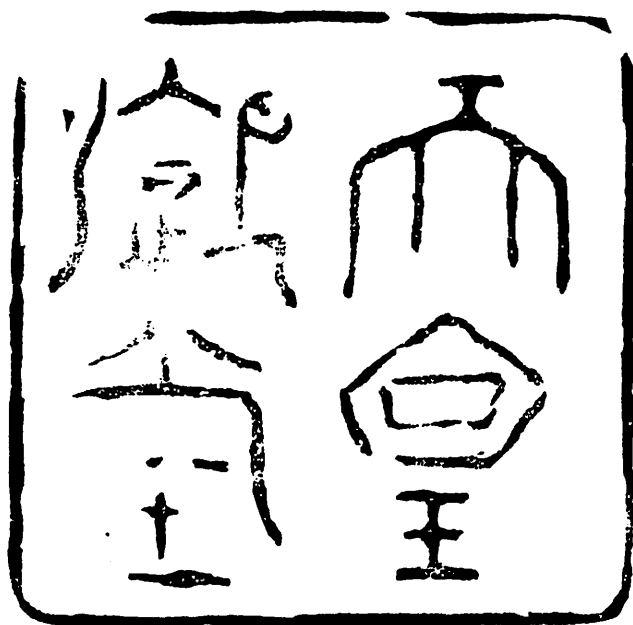
建武元年勅書所用

13 建武之宝



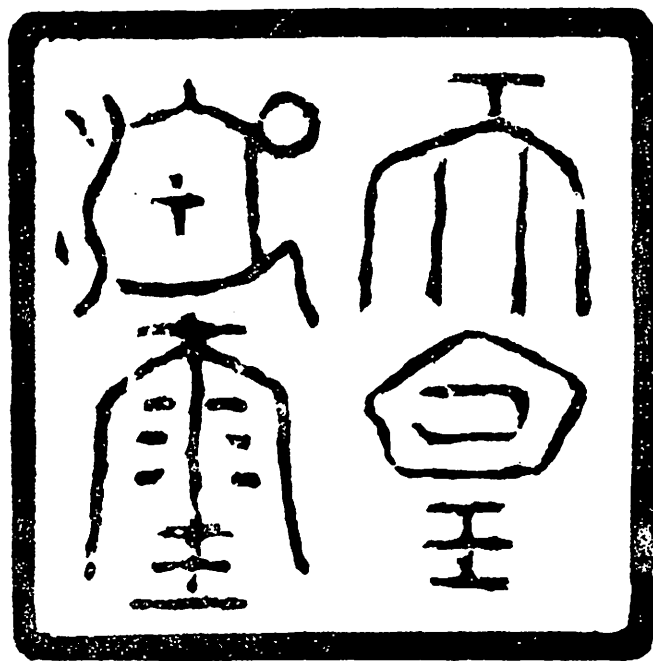
伝摹少異

14 天皇御璽



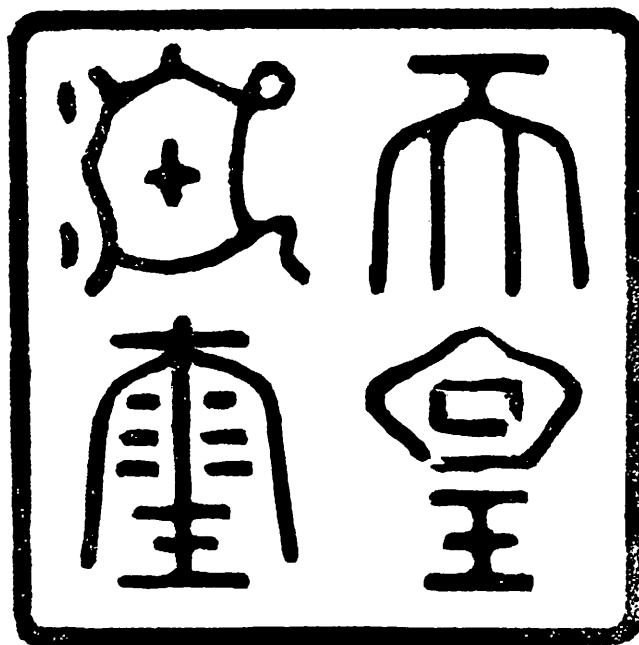
康永二年九月院宣捺印

15 天皇御璽

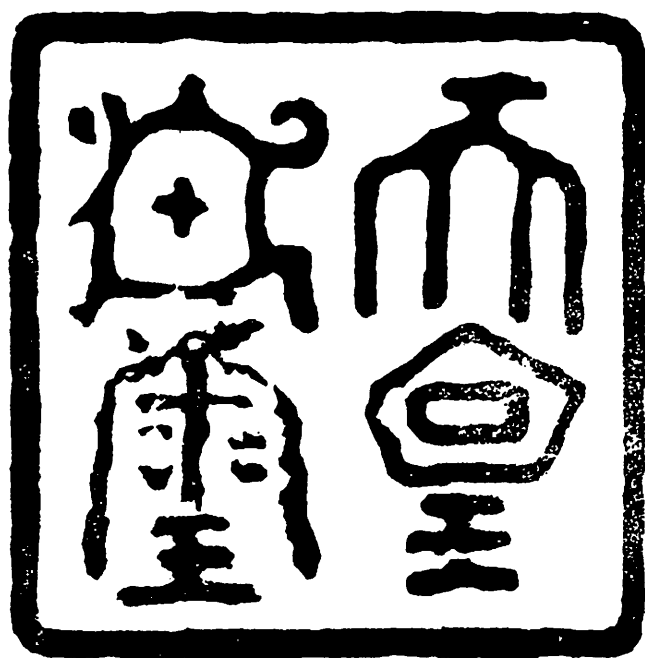


仁安二年十一月藏人所牒元祿□年撰津多田院贈位記所捺延享  
五年六月廿九日入道無品親王官牒所捺

16 天皇御璽



元祿□年撰州多田院贈位記及當時五位以上位記等捺印  
或曰此璽軀伝於民間元和後渡辺氏者得奉之疑是仁安之御璽歟  
伝摹少異



博愛堂集古印譜第二

太政官印之部

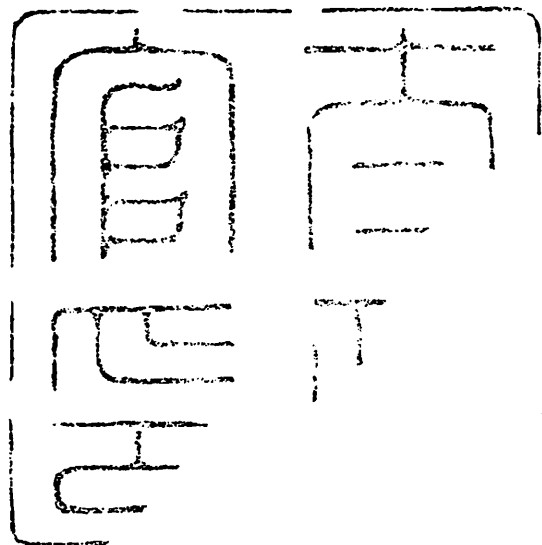
長谷川延年摹鑄

1 太政官印



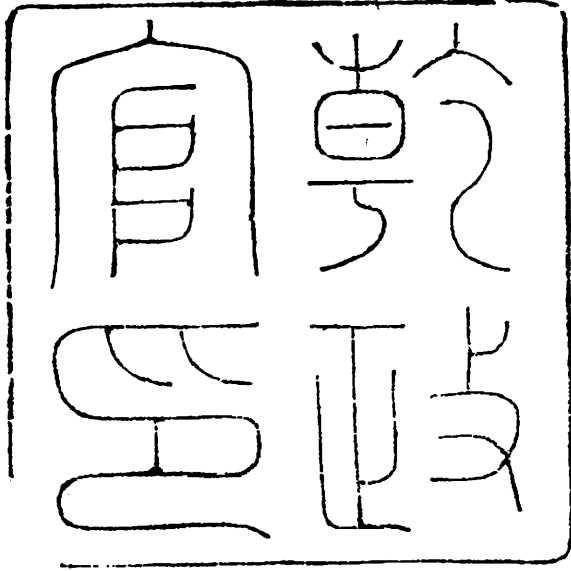
此印見惺窩先生古印摸本今以晋前尺度之方二寸五分許貞幹謹按大宝三年勅書所用内印及大学寮印以古尺度之内印方三寸太学寮印方二寸二分此印方二寸五分其制皆用晋前尺則此印大宝制令之時所鑄可知矣  
右尺則晋前尺 按晋前尺即周尺也今尺七寸四分弱

2 太政官印



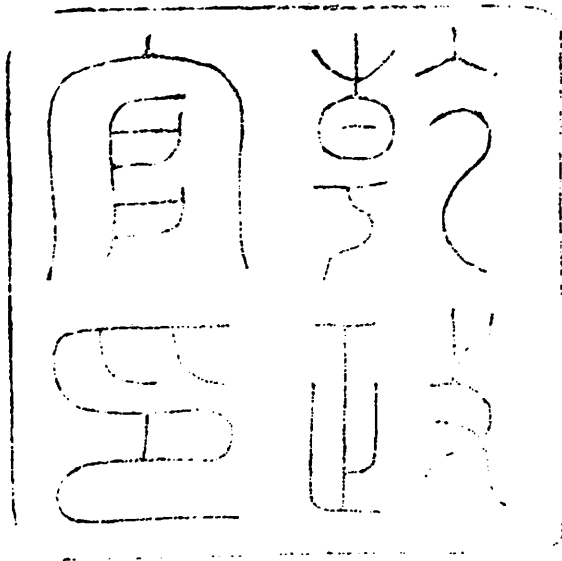
此印見惺窩先生摸本按養老制令廢古○尺用唐大小尺釁印寸法亦用小尺此印疑新令以後爾天平宝字初年所鑄矣  
按此印摹本雖不年世而非弘仁以後五百餘年間者故今斷為當時所鑄矣

3 乾政官印



此印見惺窩先生摸本統日本紀曰天平宝字二年八月改易官号太  
政官摠持綱記掌治邦国如天施德生有万物改為乾政官  
按此印当時所鑄大同太政官印

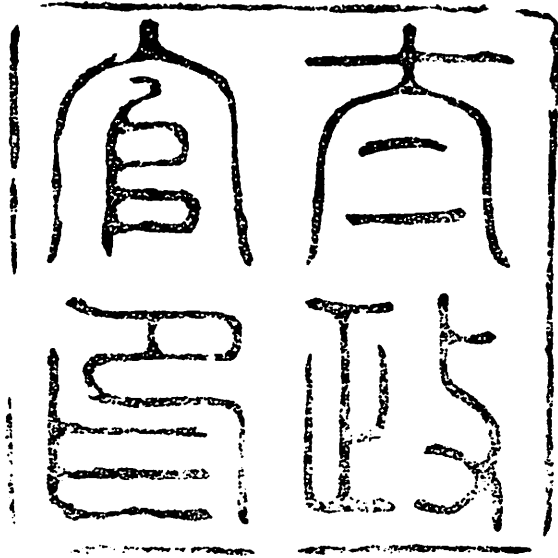
4 乾政官印



異本

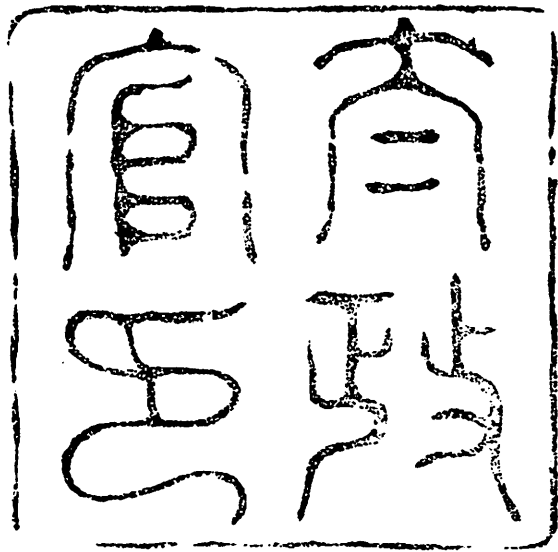


5 太政官印



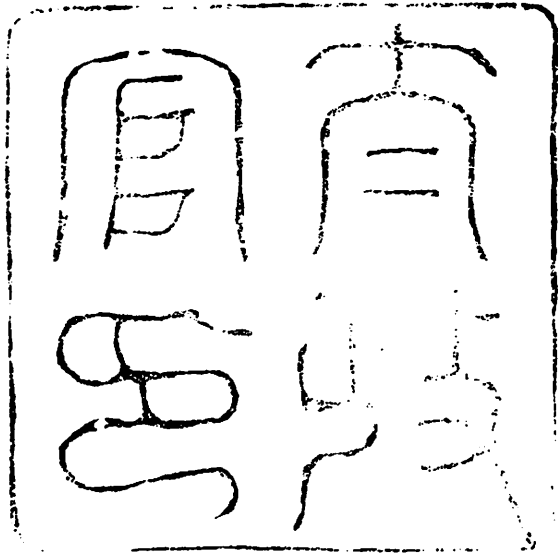
惺窩先生摸本云宝龟二年月日牒所用又延曆二年六月十七日及延曆末年牒所用幹嘗摸之此印疑天平宝字八年復官号之日所铸矣

6 太政官印



御厨所預家所伝摸本云弘仁〇年三月本官牒所用又用此印者幹嘗所摹承和年月日牒貞觀九年八月牒十八年六月牒元慶七年三月牒昌泰二年三月牒延喜廿年五月牒天曆〇年月日牒凡七通按此印疑弘仁初所铸矣

7 太政官印



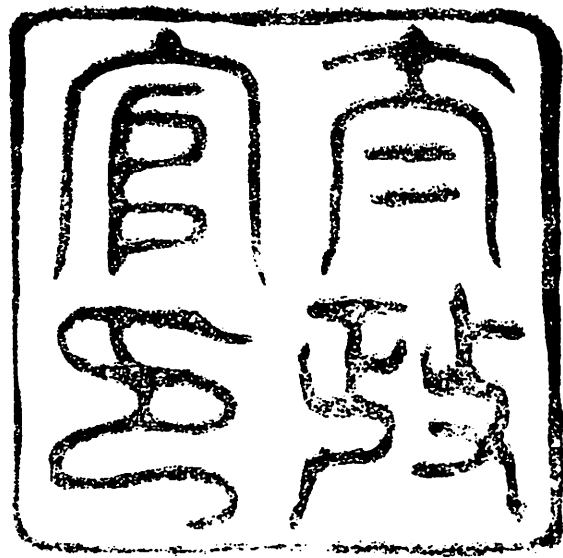
此印宗直朝臣所摸云仁寿元年正月官牒所印疑弘仁以来所用印而摸本有同異矣

8 太政官印



応和三年七月牒及寛徳二年五月牒所用印沾濁画不可摸源緒皮曰永観三年二月牒所用官印漫滅不能摸則是也此印疑応和中所铸矣

9 太政官印



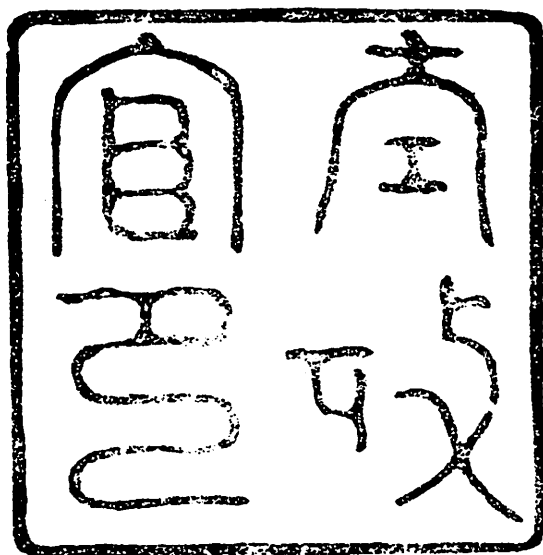
此印治曆五年正月牒及大治二年正月永治元年十一月廿四日康治元年十二月廿七日久安二年三月廿日仁平元年五月廿六日久寿二年正月十四日保元々年閏九月八日平治元年十二月十九日永曆元年〇月廿八日応保三年二月九日長寛二年正月十四日仁安三年九月二日嘉応二年正月十四日治承四年十二月十九日牒所用幹按此印疑康平中所鑄矣

10 太政官印



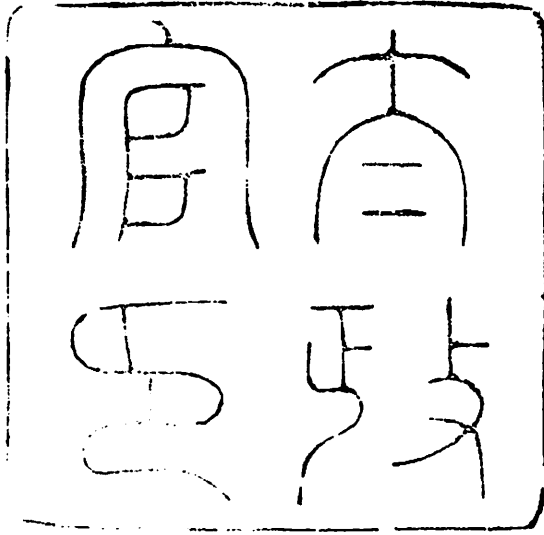
寿永二年三月廿日牒元暦二年五月廿日牒文治四年二月八日牒  
建久二年二月廿八日牒五年十二月尽日牒

11 太政官印



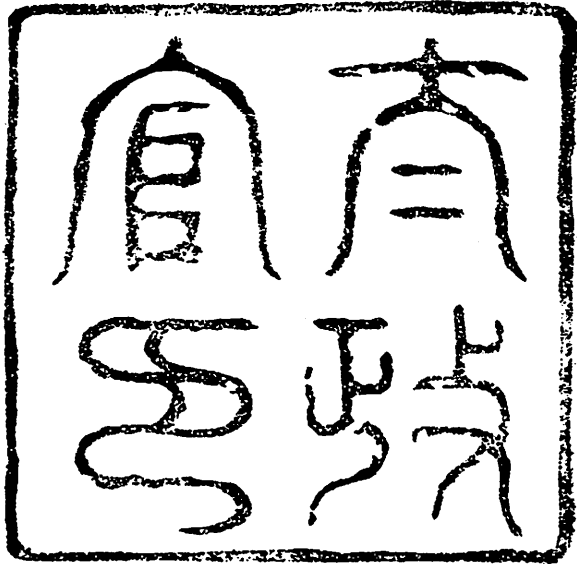
弘安九年十一月八日度牒所用原本相摸国鎌倉郡宅間村報恩寺  
所藏

12 太政官印



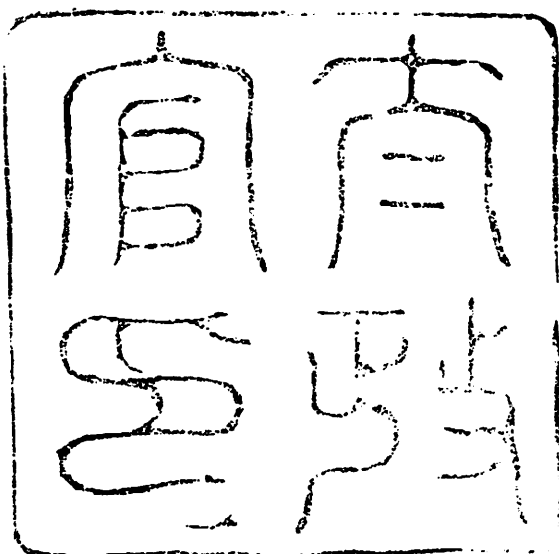
治曆中官符同五年正月牒所印頗異

13 太政官印



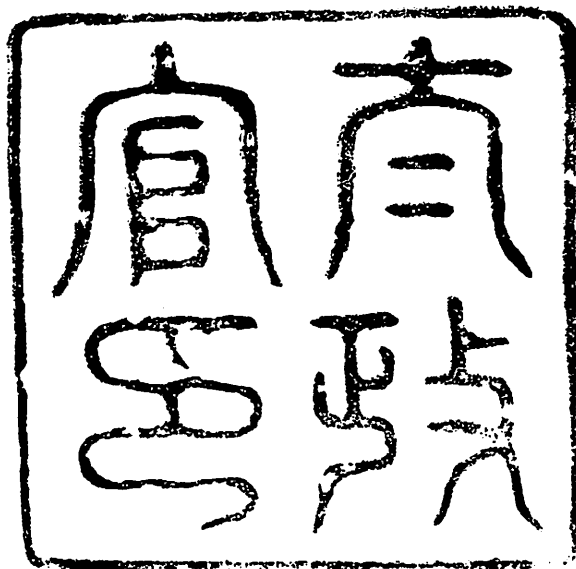
承久寛喜年間牒符所用

14 太政官印



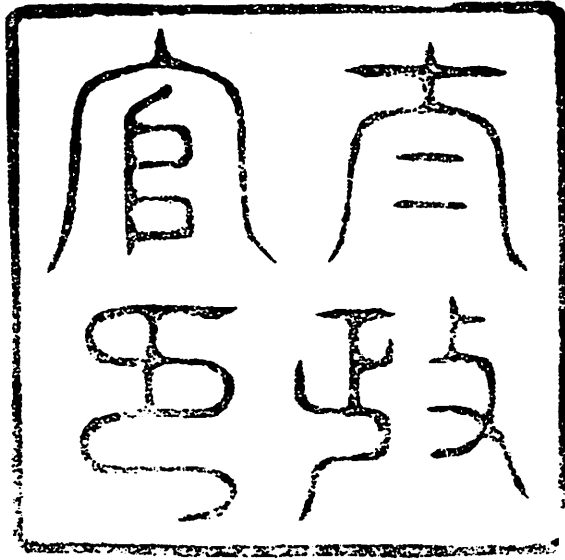
延喜三年月日官牒所用

15 太政官印



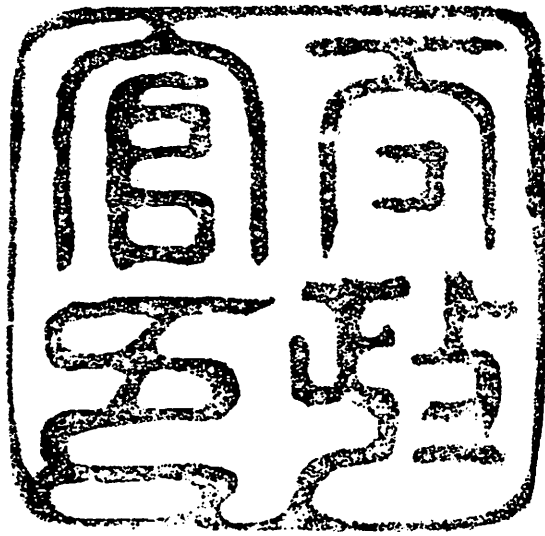
貞觀九年月日官牒所用

16 太政官印



貞心三年正月日符嘉祿元年十二月晦日牒寛喜元年四月晦日符  
 嘉禎四年三月十八日符延心元年三月九日牒建長三年五月廿一  
 日牒五年五月十九日牒等所用

17 太政官印



正嘉元年十月十二日符元心二年九月九日牒正平二十三年八月  
 八日牒所用此印寿永中所铸印文行能卿之書也袁詳見入木口伝  
 鈔

18 太政官印



正和二年四月八日聖一度牒所用原本東福寺子院所藏幹按貞応  
以來有所用外印而弘安九年十一月正和二年四月度牒所用外印  
如右始知當時用度牒者別有印矣

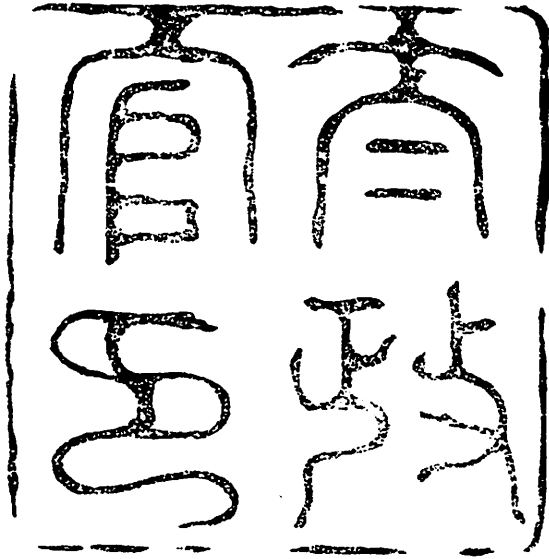
19 太政官印



永正三年二月九日本官牒所用 壬生官務家所伝摹

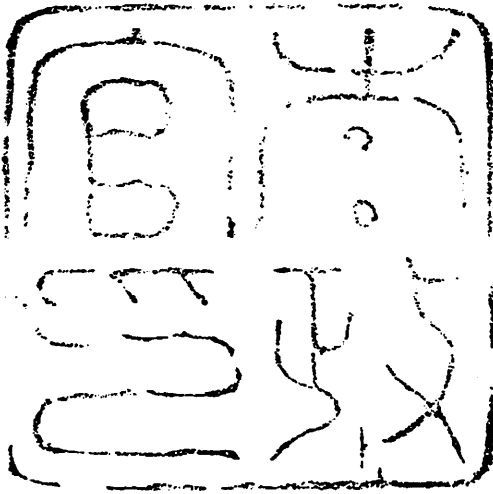


20 太政官印



弘仁十四年宸翰山門光定戒疏所捺

21 太政官印



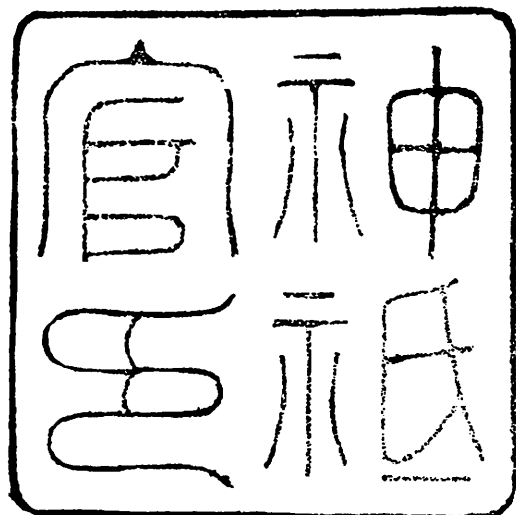
紀州家井田氏所藏

博愛堂集古印譜第三

八省諸寮印之部

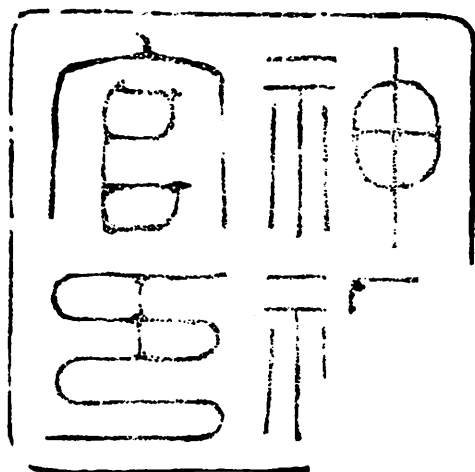
長谷川延年摹鑄

1 神祇官印



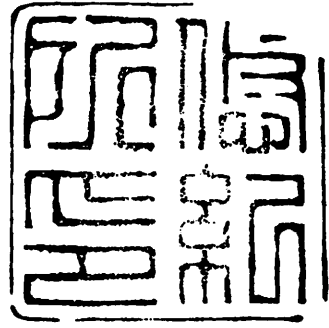
宝龟十年四月三日移露巖神社文書所捺

2 神祇官印

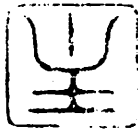


古摹本

3 悠紀所印二

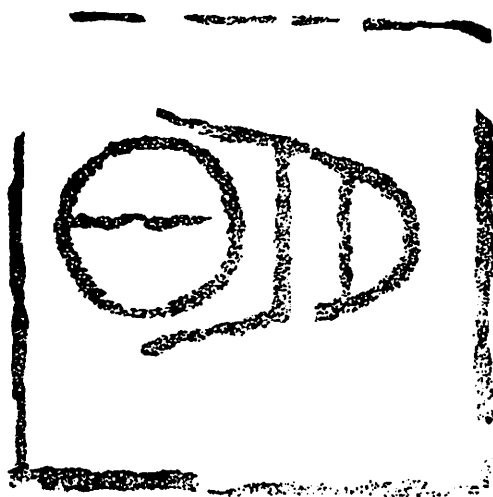


4 主基所印二



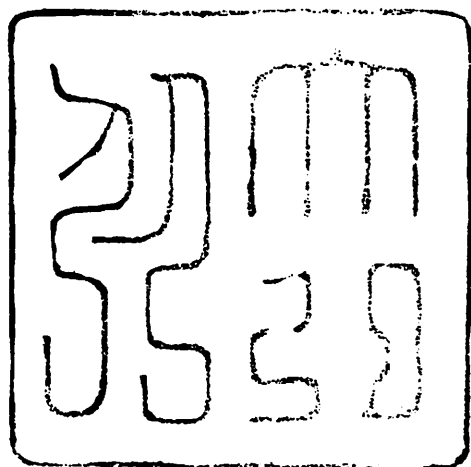
太嘗祭悠紀所主基所印四顆字樣見山槐記而伝写者有小異同未知孰是且其運刀寸法無可稽存之以俟後考

5 明字印



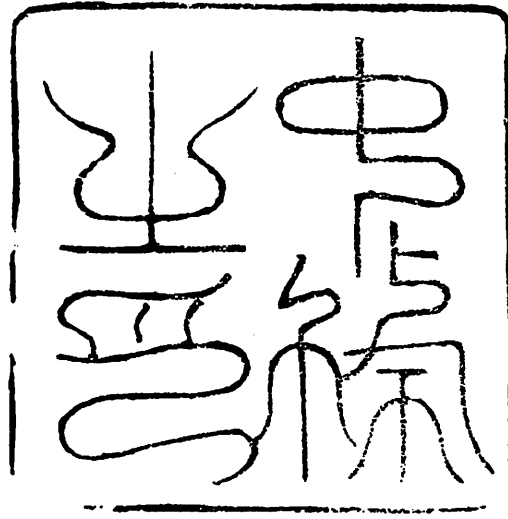
明心五年正月六日神祇官牒所捺

6 大司徒印



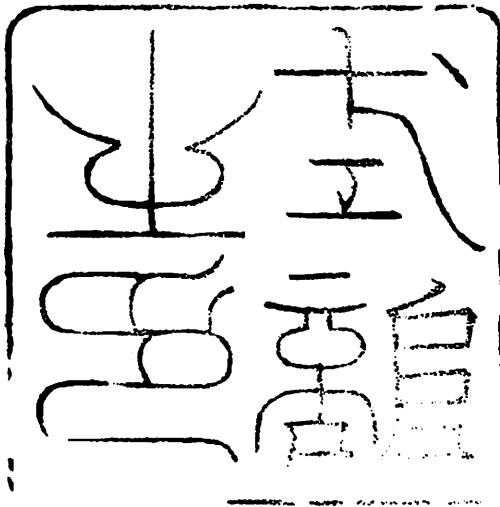
承和十二年九月十日民部省符所用

7 中務之印



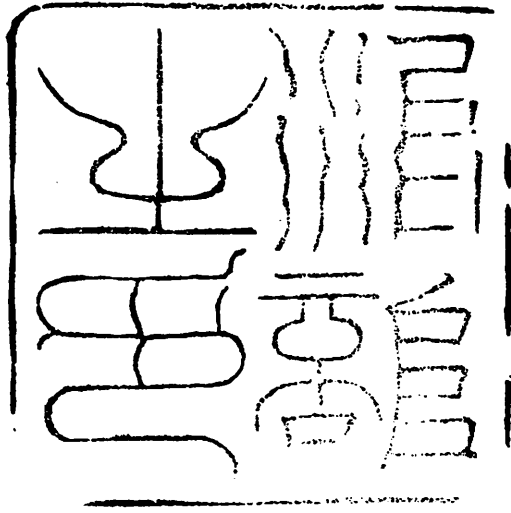
天平十七年四月中宮職左右大舍人寮已下所管解文接縫所捺

8 式部之印



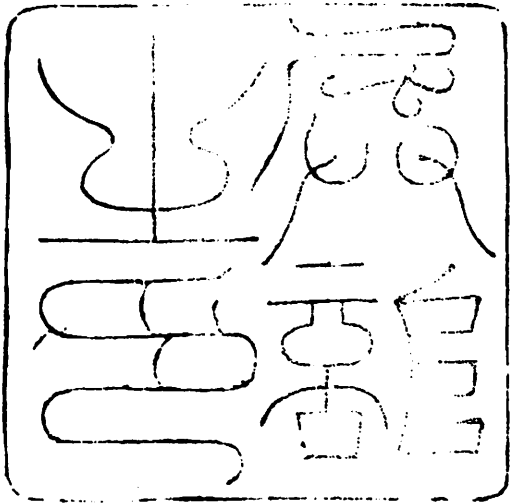
天平十七年当省所管移文中所捺

9 治部之印



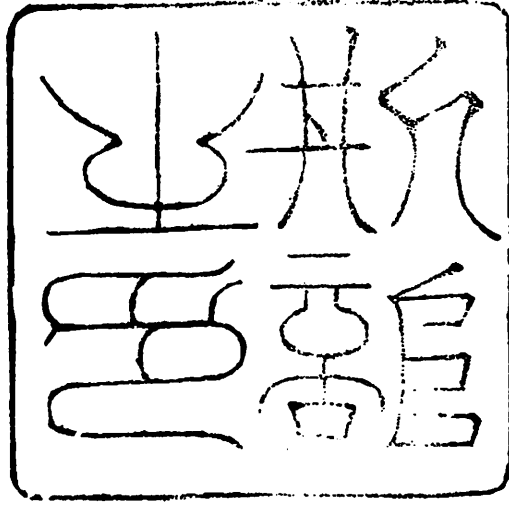
天平十七年四月解文連接所捺

10 兵部之印



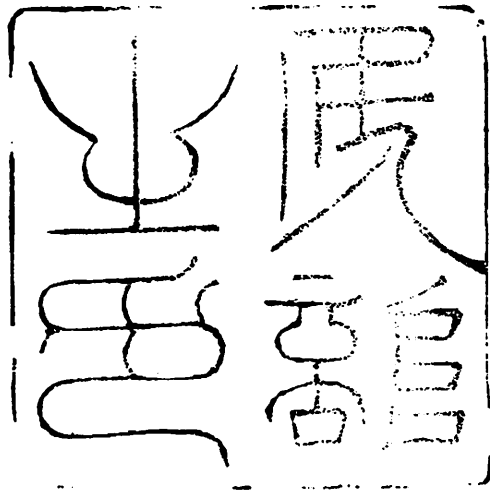
天平十七年四月当省移文所捺

11 刑部之印



天平十七年四月当省移文所捺

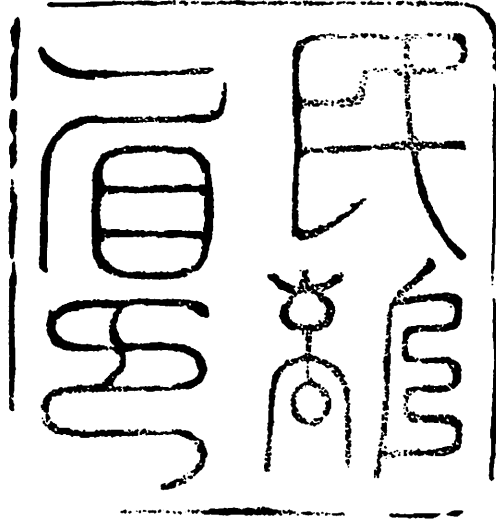
12 民部之印



天平神護三年二月廿八日当省送東大寺三綱牒所捺

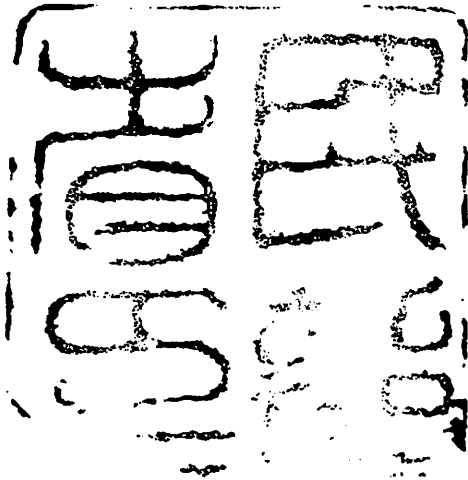


13 民部省印



延長七年正月十四日招提寺函帳所捺

14 民部省印



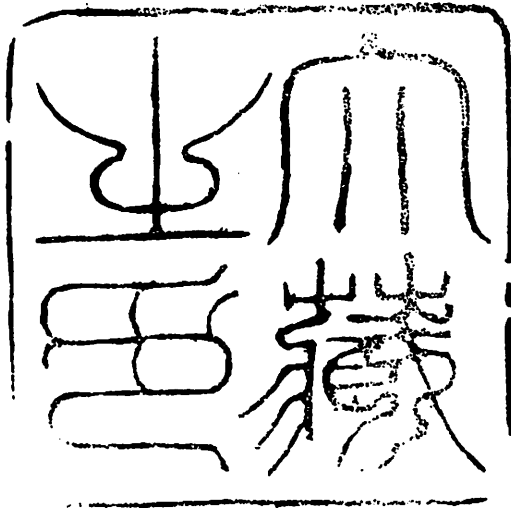
寛喜二年四月中宮職御符民部省符所捺  
行事官所藏

15 内蔵寮印



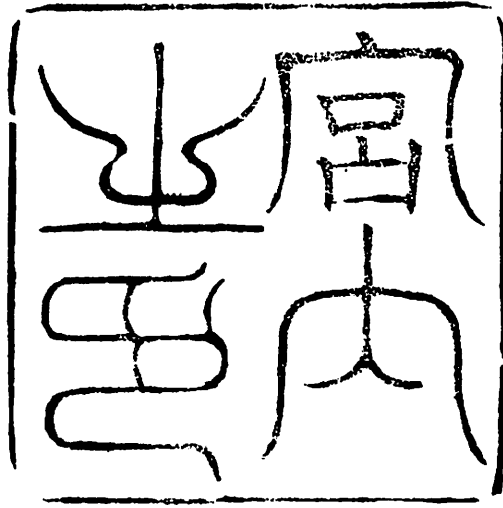
堀川西近衛南修理職東古牒所捺

16 大蔵之印



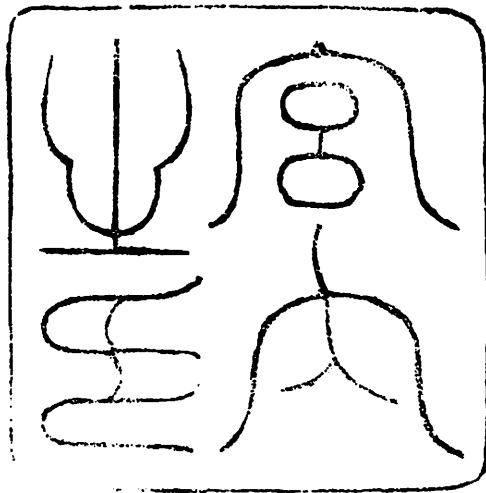
天平十七年四月本省移文接統以捺此印

17 宮内之印



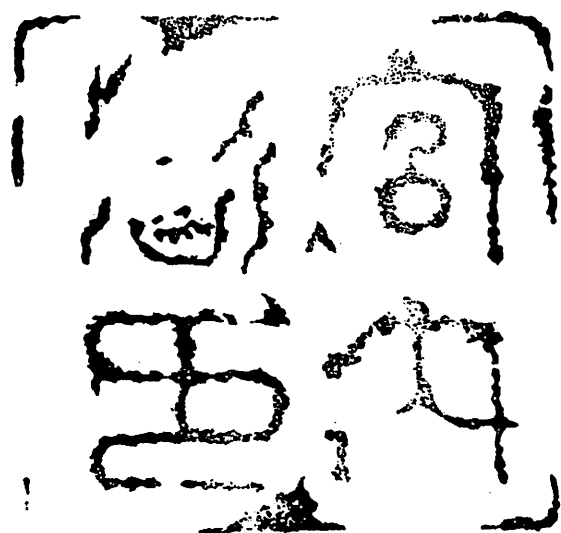
天平十七年四月当省解文所捺

18 宮内之印



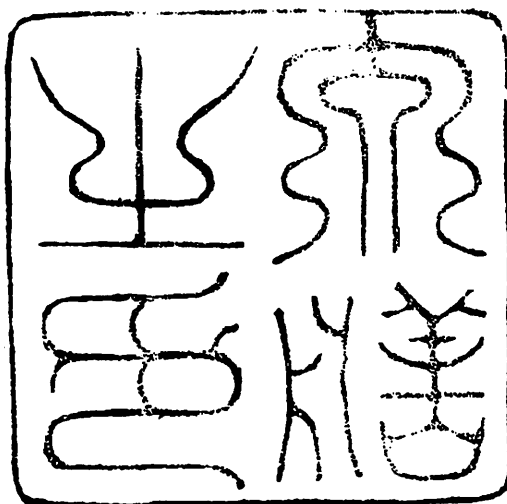
天平十七年四月十七日造酒司解所捺

19 宮内省印



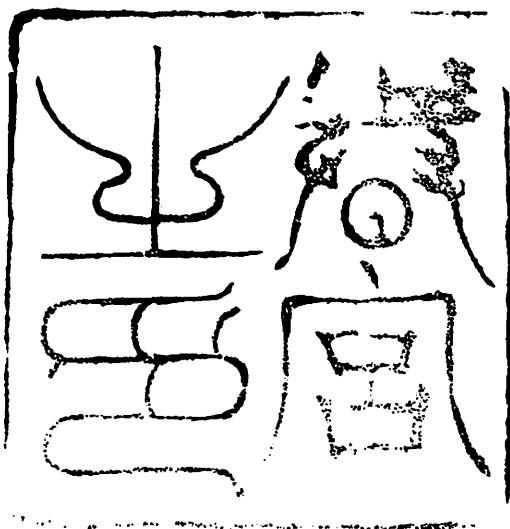
古摹本

20 大膳之印



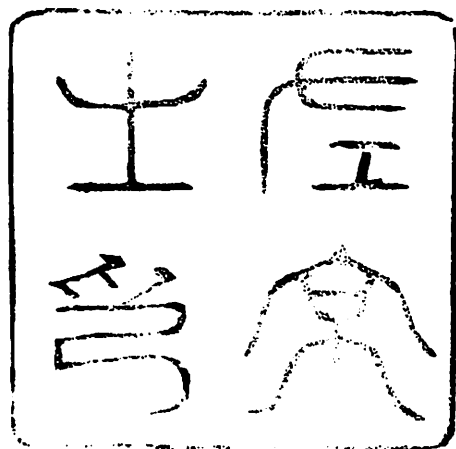
天平十七年十二月廿一日移文所捺

21 春宮之印



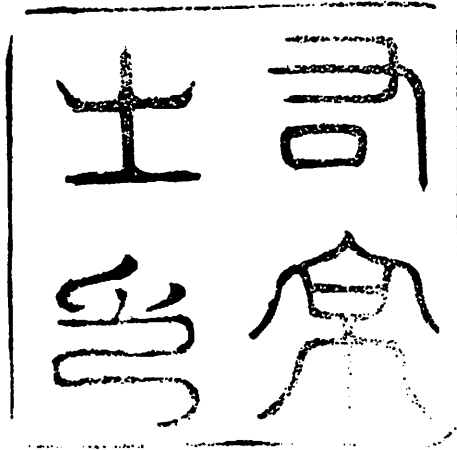
天平十七年十二月移文所捺印

22 左京之印



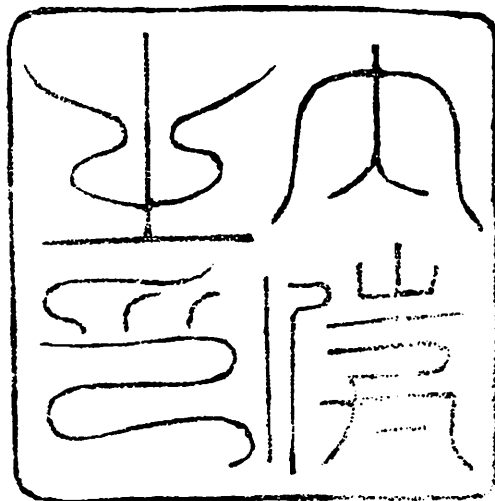
天平七年月日当職正税帳等所捺

23 右京之印



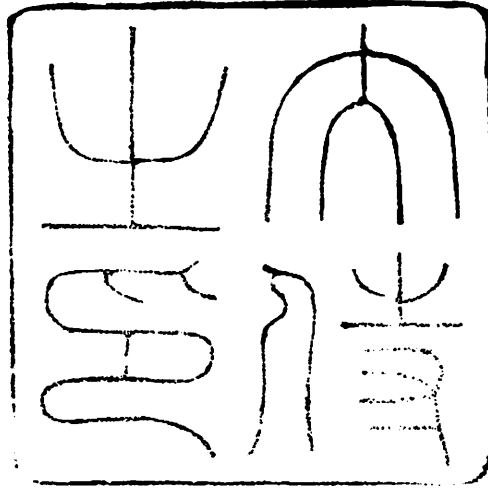
天平五年同十七年移文合縫各所捺

24 内侍之印



天平八年七月廿九日及八月廿六日牒連署所捺

25 内侍之印



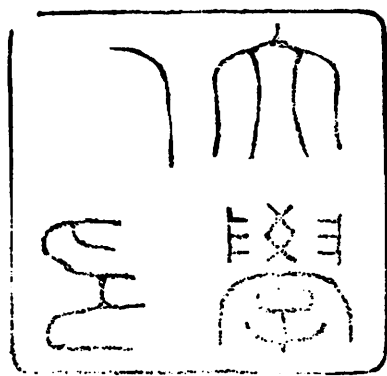
嘉祥二年六月廿二日僧円珍位記所印

26 右近衛印



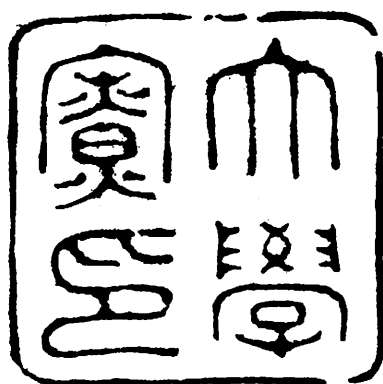
安元々年八月日右近衛府牒所捺 大隅国始羅郡加治木村島津  
兵庫家士桑幡屯藏先祖牛屎郡司太秦元光伝来

27 大学寮印



大宝三年七月廿日勅書合縫所印

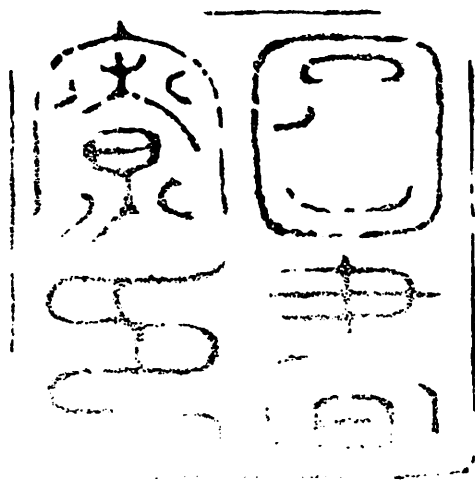
28 大学寮印



貞幹按件印大宝制令之時所鑄可知件年  
年本朝始行積奠  
文武帝即位五年也此



29 函書寮印



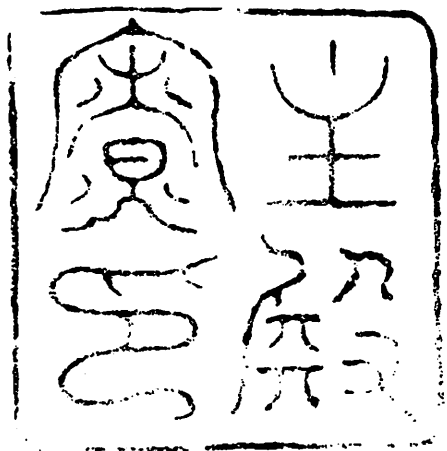
古摹本

30 雅樂寮印



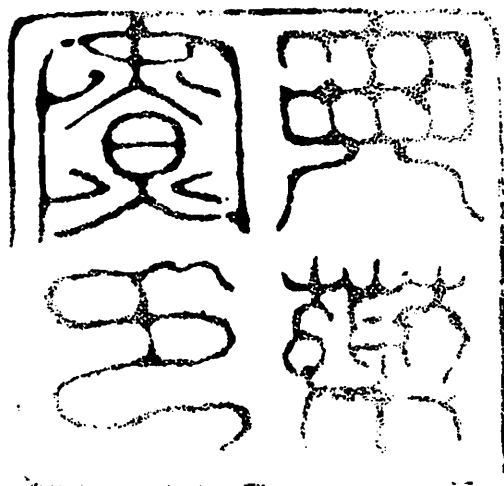
古摹本

31 主殿寮印



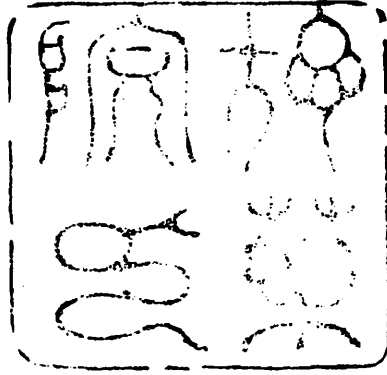
貞応二年二月日官牒所用

32 典薬寮印



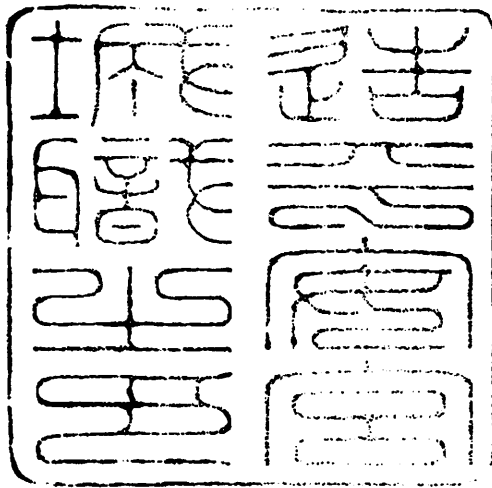
医書古本所印

33 施藥院印



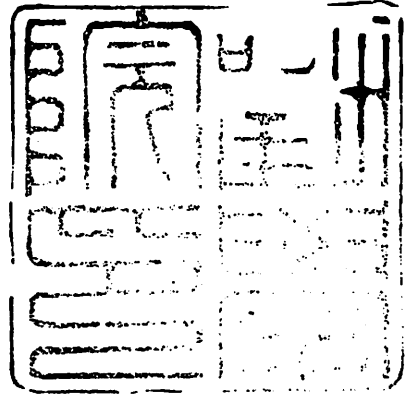
永万元年十二月仁安元年十二月同二年十二月白散送文所用

34 造平安宮城職之印



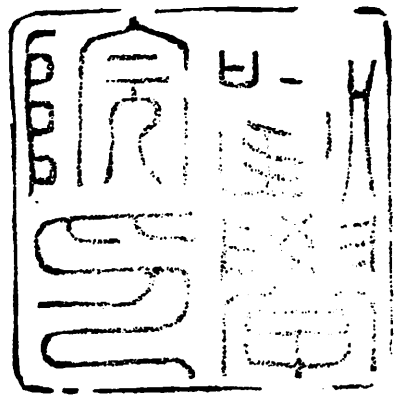
延曆十年月日造宮文書所印

35 勸学院印



弘仁十三年五月十八日当院解所用

36 勸学院印



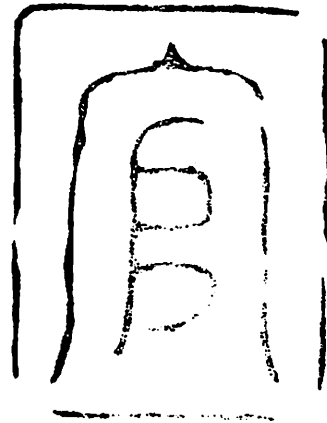
異本

37 勸学院印



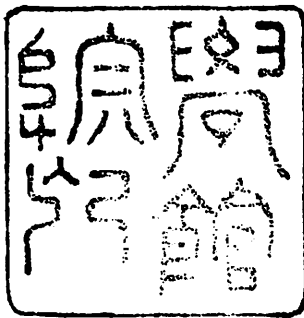
尾州家八木養硯藏

38 官字印



古蔡本

39 学館院印



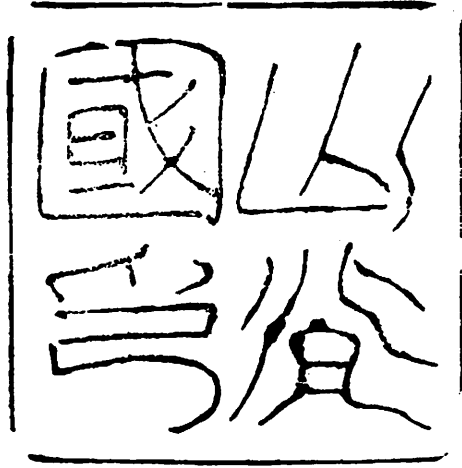
天正七年九月十七日梅宮社祝補任牒所捺  
承和二年私記云承和二年九月廿日学館院造立云々

博愛堂集古印譜第四

諸國印并倉印

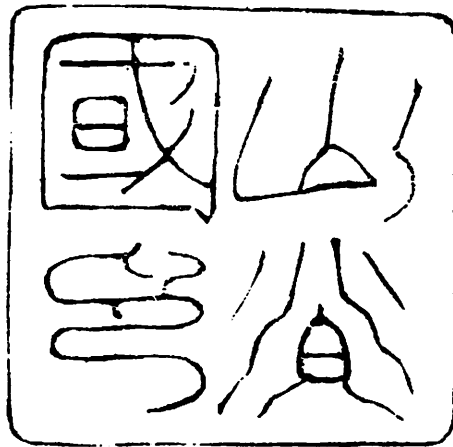
長谷川延年摹鑄

1 山背国印



神亀三年戸籍所捺

2 山背国印



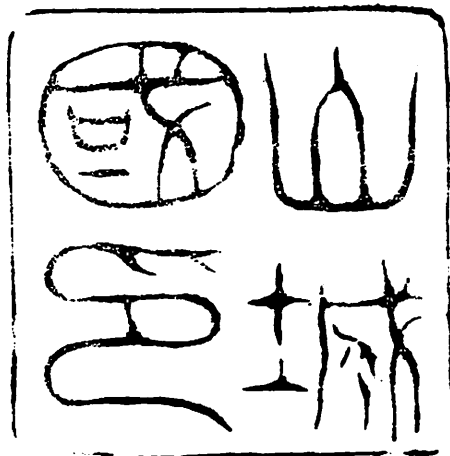
天平十五年四月廿二日田券同二十年八月廿六日文書所印

3 山城国印



当国名字改革之後所造  
承和八年十月九日家地沽券同九年九月廿七日所捺

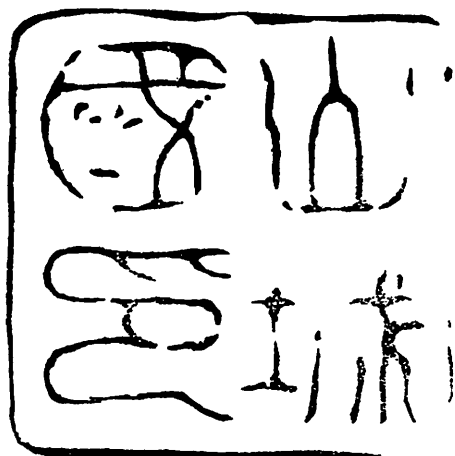
4 山城国印



天永元年七月廿八日教王護国寺解所印

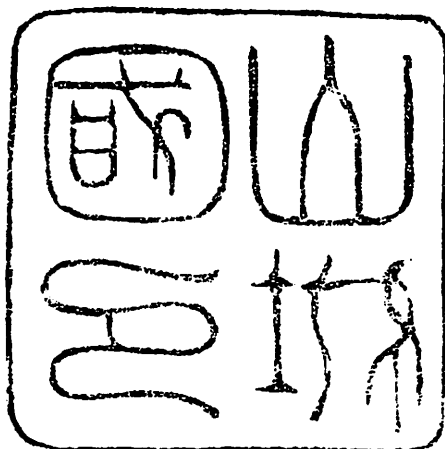


5 山城国印



永延二年九月十日山科郷田券所用

6 山城国印



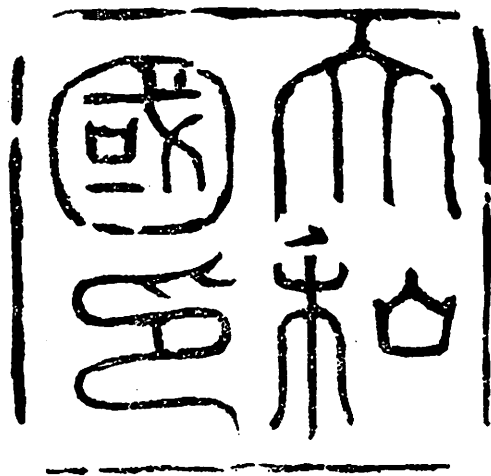
古蔡本

7 大倭国印



天平二年正税帳所印

8 大和国印



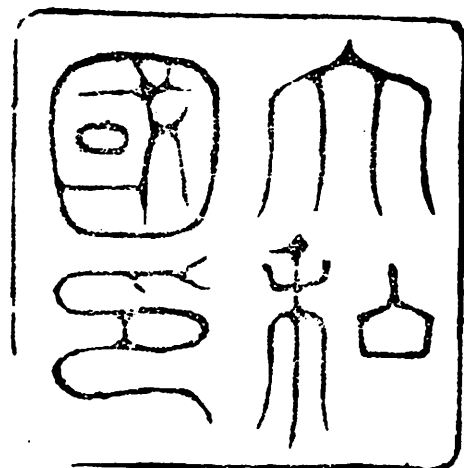
天平神護元年八月十六日解所捺

9 大和国印



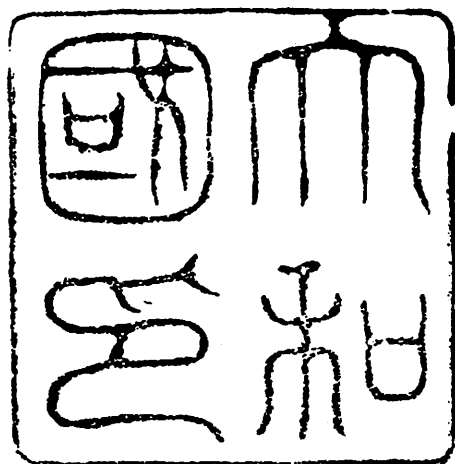
貞觀十四年十二月十三日家地券所捺

10 大和国印



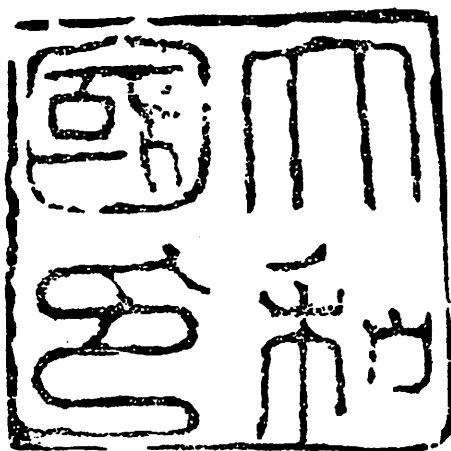
宝龜八年六月廿九日国解所印

11 大和国印



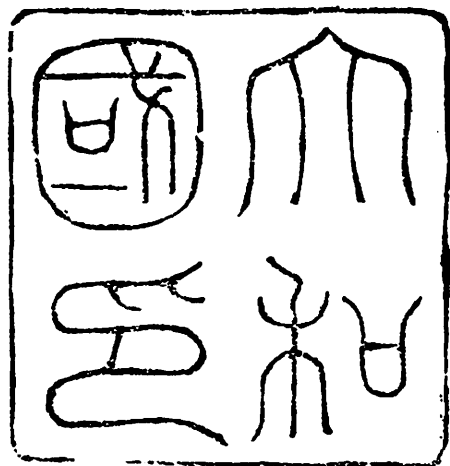
年月日当国解所用

12 大和国印



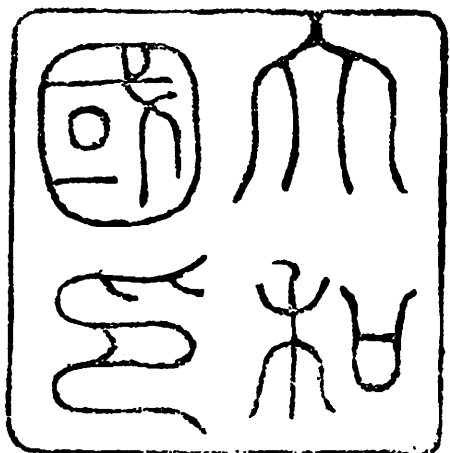
弘仁七年十一月廿一日薬院庄田券所捺

13 大和国印



古摹本

14 大和国印



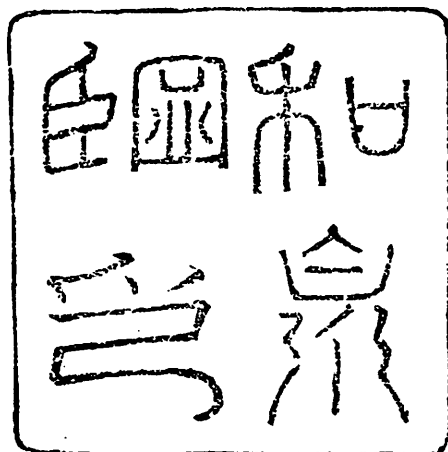
古摹本

15 河内国印



天平九年大稅負死亡人牒所捺

16 和泉監印



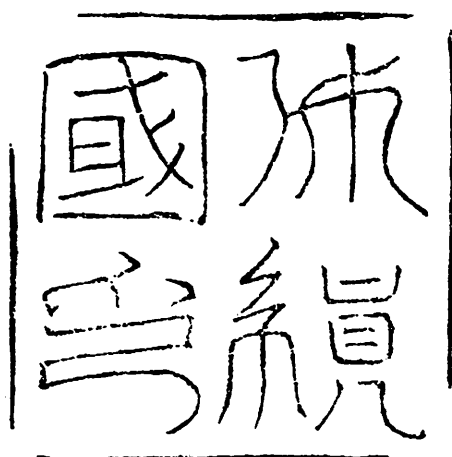
天平九年正稅帳所印

17 撰津国印



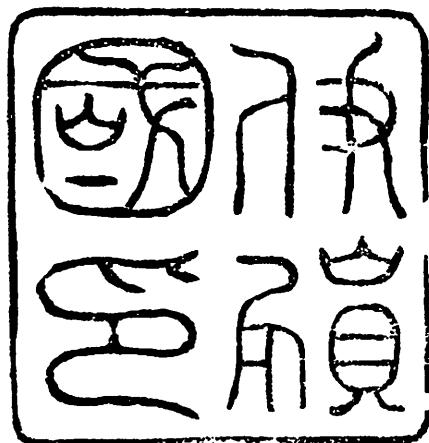
天平八年正税帳及天平勝宝九年三月十六日当職造瓦事解文所  
捺

18 伊賀国印



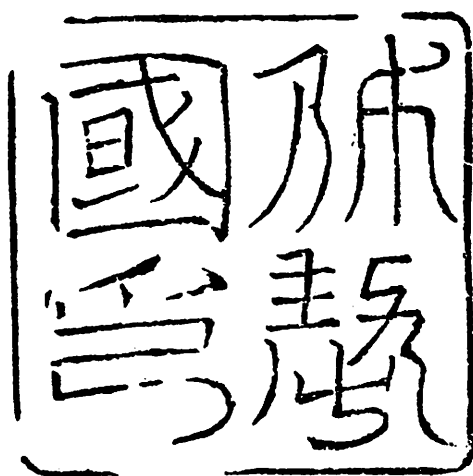
天平二年大税帳所印

19 伊賀国印



天平宝字二年十一月廿八日当国々司解所用

20 伊勢国印



当国解文所捺年月不審  
三代実録曰貞観十五年九月廿五日新鑄銅印一面賜伊勢国旧印  
文字割滅也



21 志摩国印



神亀六年輸庸帳所用

22 尾張国印



天平二年大稅帳及六年正稅帳所印

23 尾張国印



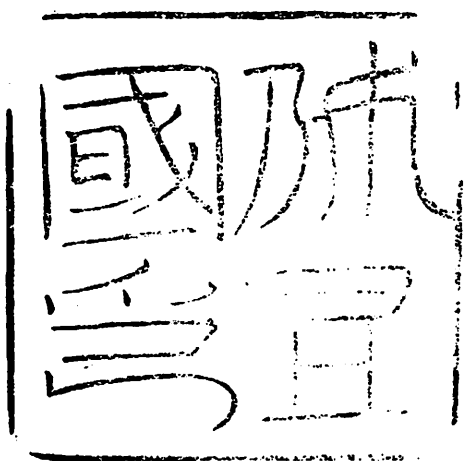
天長二年十一月十二日国司牒所印

24 甲斐国印



天平宝字五年十二月廿三日申貢上坤宮官逃走仕丁之替事解文所印

25 伊豆国印



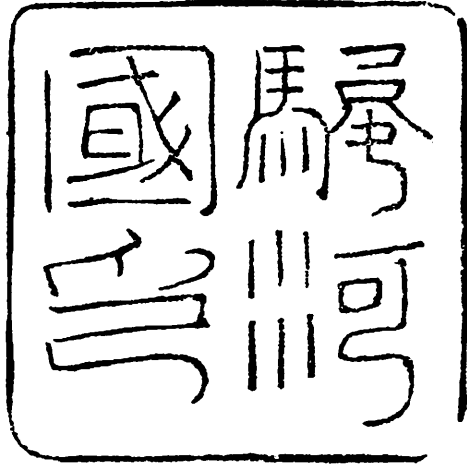
天平十一年正税帳所印

26 遠江国印



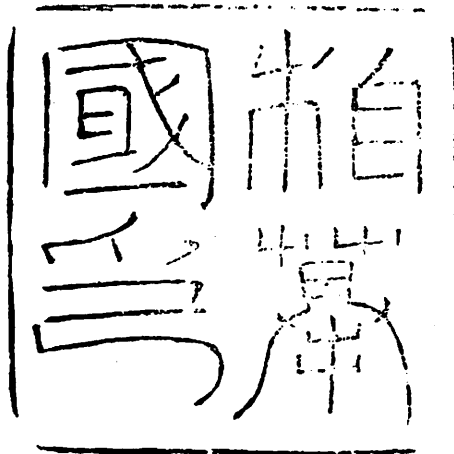
天平十二年浜名郡租帳夾名帳所印

27 駿河国印



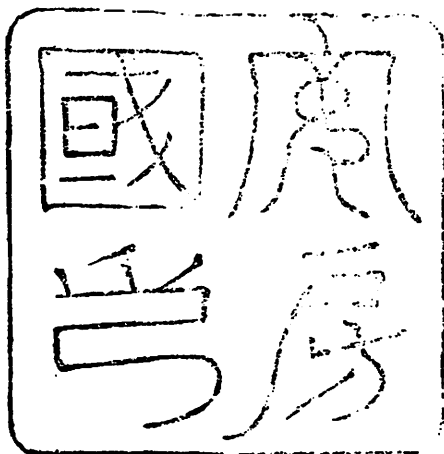
天平九年及十年正税帳所印

28 相摸国印



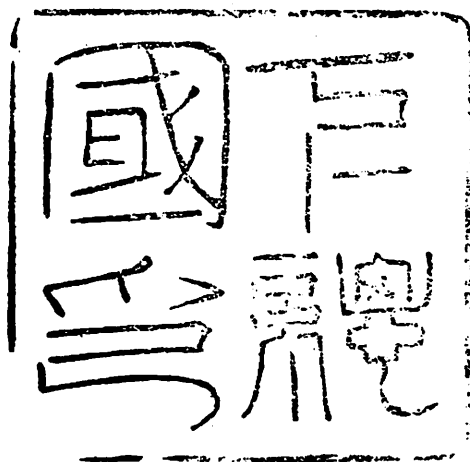
天平七年封戸租交易帳所印

29 安房国印



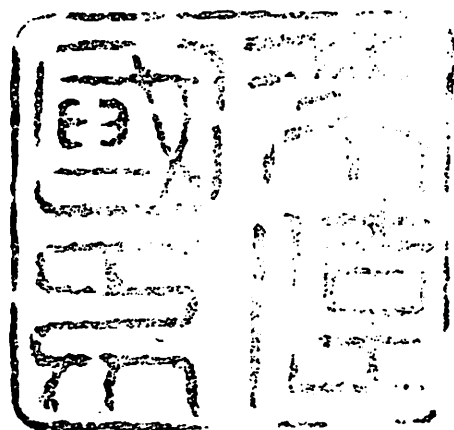
天平二年義倉帳所印

30 下総国印



養老五年戸籍所印

31常陸国印



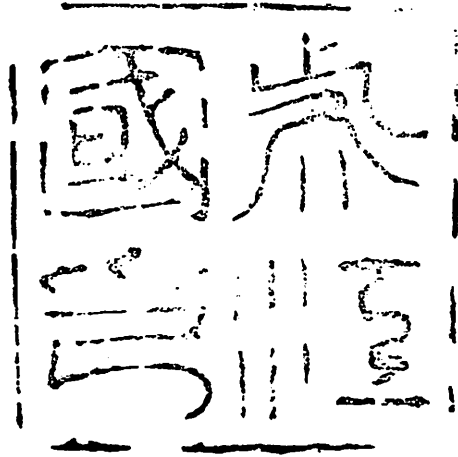
東大寺什当国茨城郡大幡郷戸主口馬磨調一端以下磨滅年月  
不見

32常陸国印



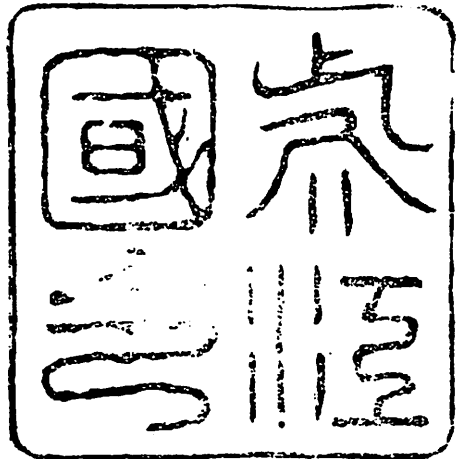
法隆寺什天平宝字六年十月当国信太郷調布所印

33 近江国印



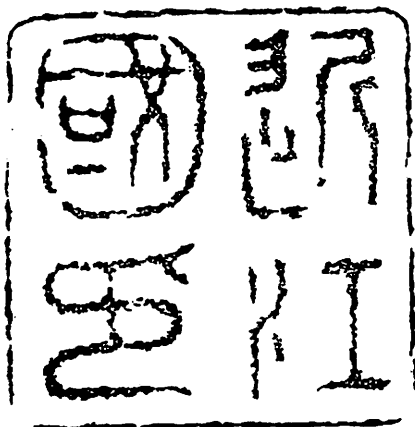
天平十八年七月十一日解及天平勝宝三年墾田図等所捺

34 近江国印



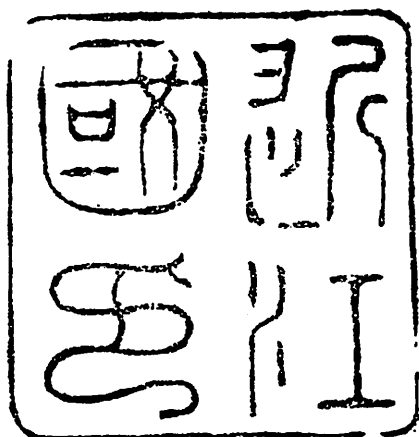
天平勝宝三年七月廿七日同八月二日当国甲賀郡墾田券所用

35 近江国印



東大寺伝文書所用年月不詳

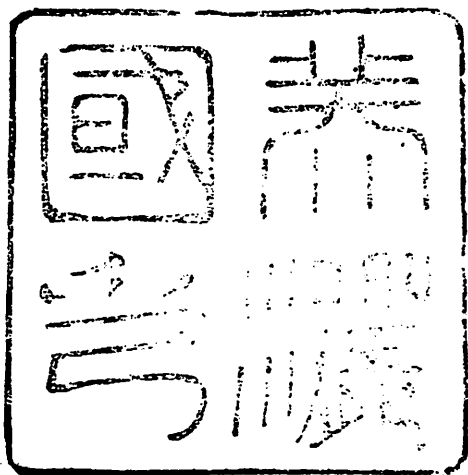
36 近江国印



異本

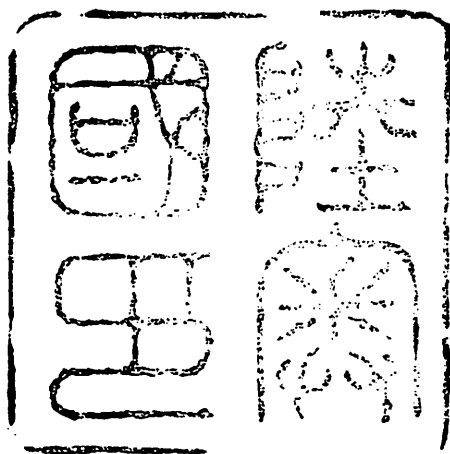


37 美濃国印



天平勝宝二年四月廿二日解所用

38 陸奥国印



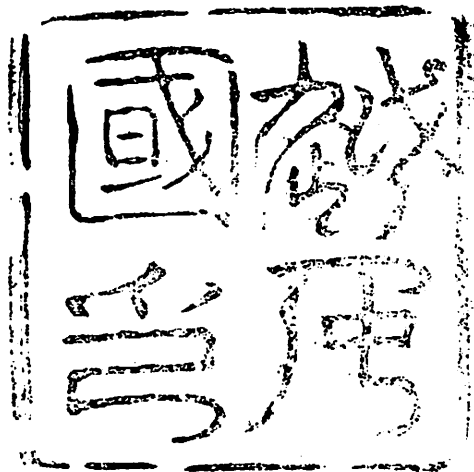
承和八年月日国解所用

39 越前国印



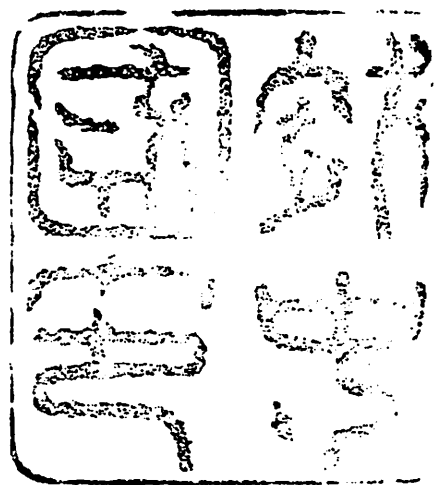
天平二年義倉帳正稅帳及四年郡稻帳又天平宝字二年八月十一日牒等所用

40 越中国印



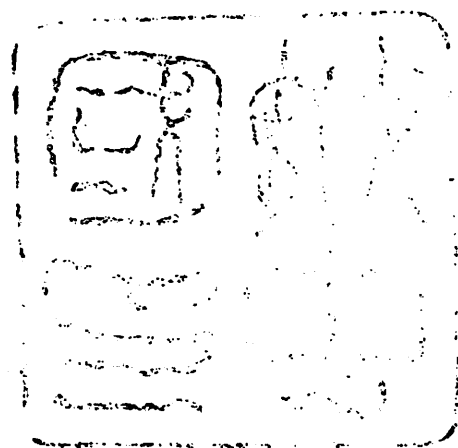
天平宝字神護景雲年間墾田図所印

41 越中国印



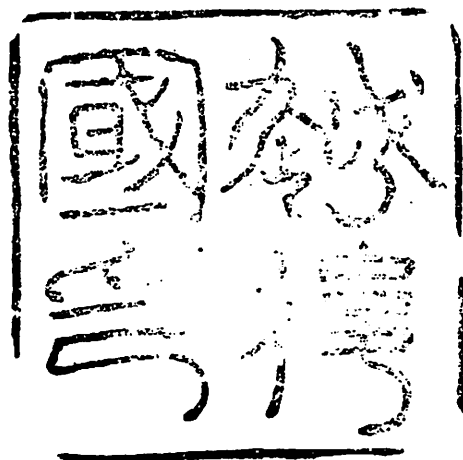
延喜十年七月九日納穀牒所印

42 越中国印



天平宝字三年十一月十四日神護景雲九年十一月十六日墾田  
所捺

43 越後国印

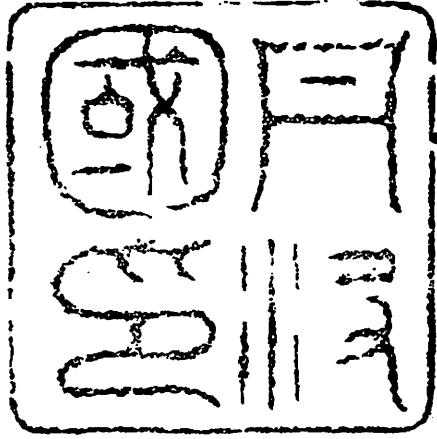


44 佐渡国印



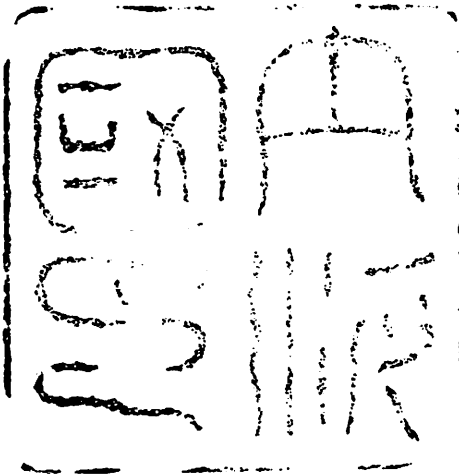
天平四年及八年正税帳所印

45 丹波国印



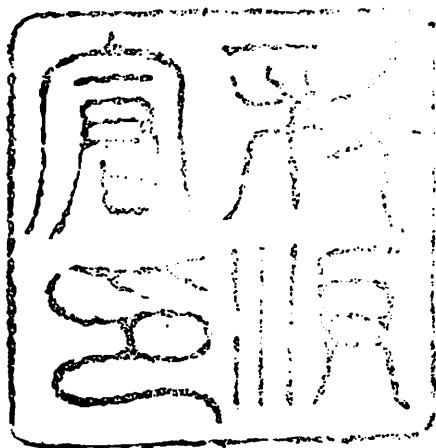
延喜十五年十月廿二日国牒所用

46 丹波国印



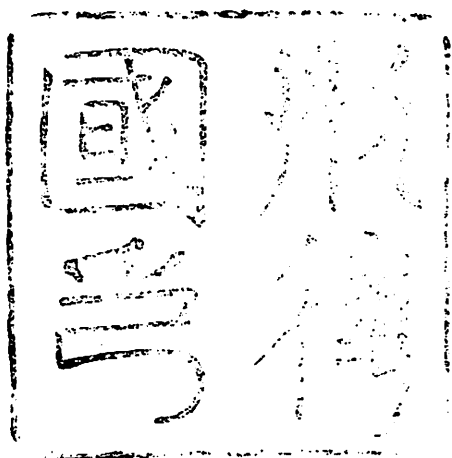
寛平元年十二月十五日林券所捺

47 丹波倉印



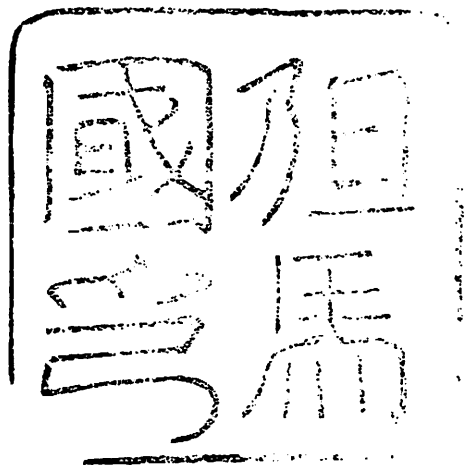
承平二年九月廿二日本国牒所用

48 丹後国印



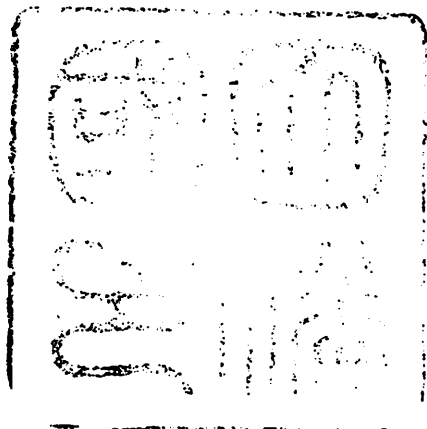
天平勝宝元年十二月十九日申進上奴婢支解文所印

49 但馬国印



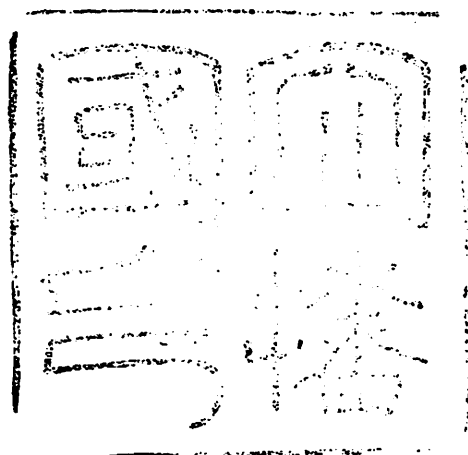
天平九年正税帳所印

50 因幡国印



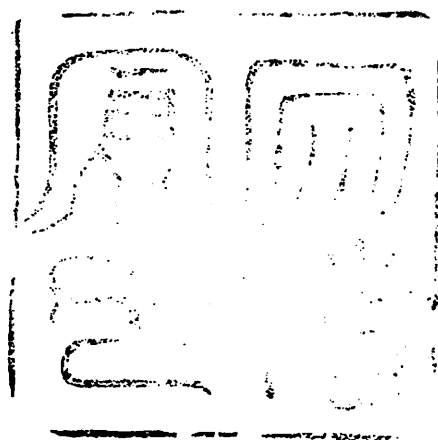
承和九年七月廿四日文書所印

51 因幡国印



係年未審百姓男女歴名文書中二印所雜捺

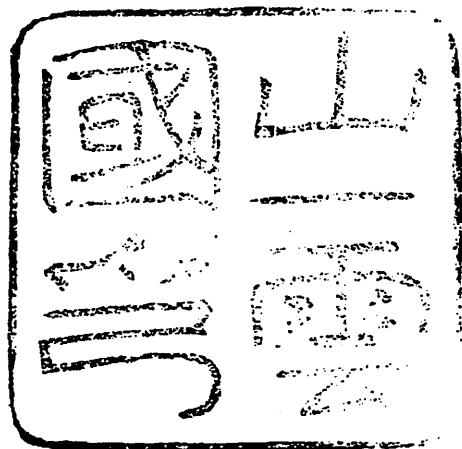
52 因幡倉印



係年未審百姓男女歴名文書



53 出雲国印



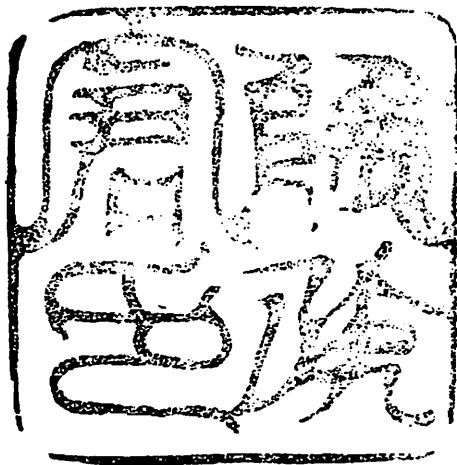
天平六年計会帳及十一年賑給歴名帳所印

54 隱岐国印



天平二年及四年正税帳所印

55 隱岐倉印



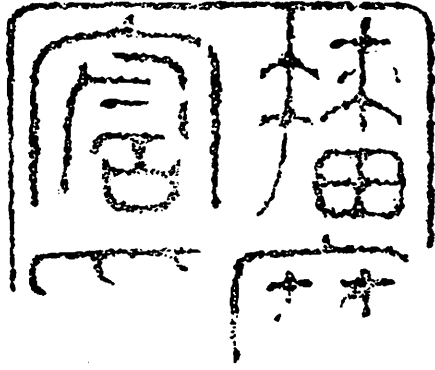
隱岐国知夫郡由良比売祠藏印当時所現存実希世之珍也

56 播磨国印



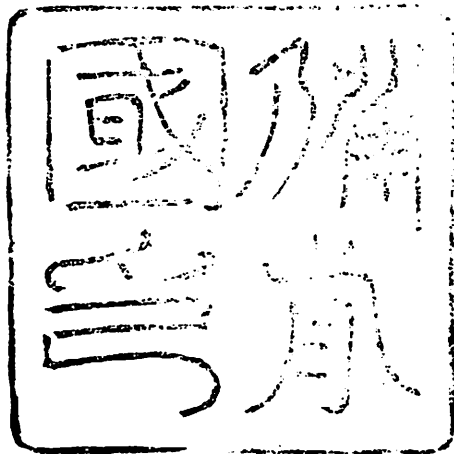
係年未審計会帳断簡所捺

57 播磨倉印



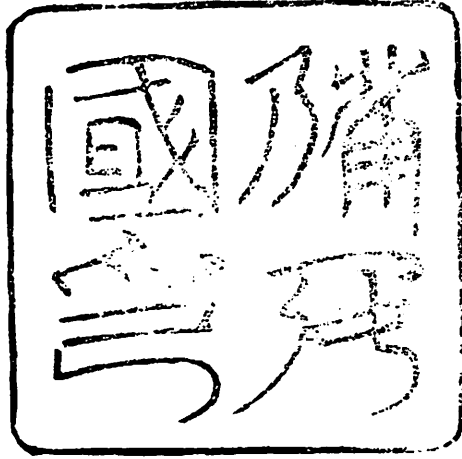
東大寺所伝文書所用年月不詳

58 備前国印



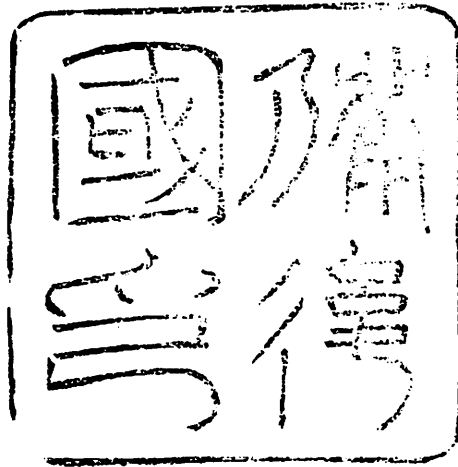
古摹本

59 備中国印



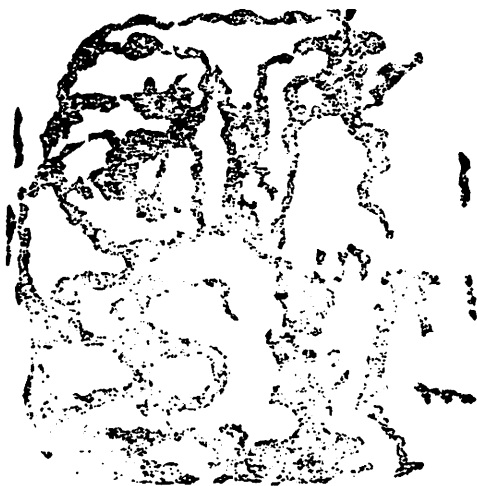
天平十一年大稅負死亡人帳所印

60 備後国印



古摹本

61 安芸国印



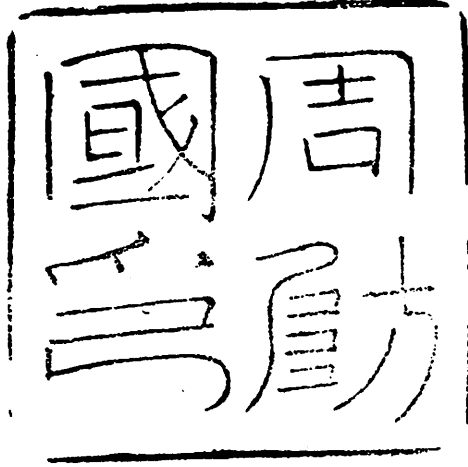
天喜元年国解所印

62 安芸倉印



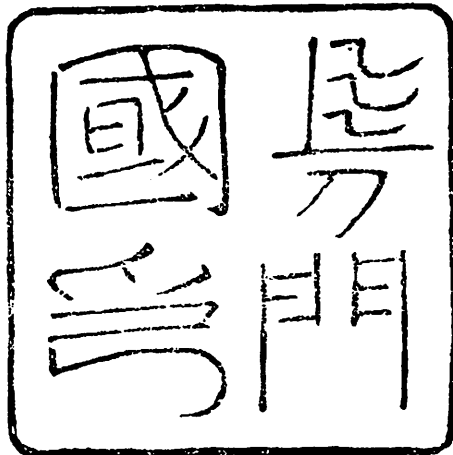
天喜元年二月五日文書所印  
巖島社藏

63 周防国印



天平六年及十年正税帳所印

64 長門国印



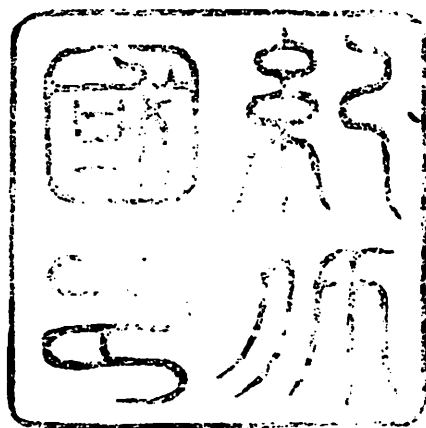
天平九年正税帳所用

65 紀伊国印



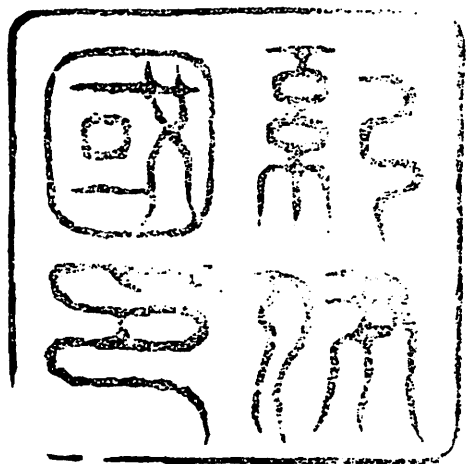
天平二年正税帳所印

66 紀伊国印



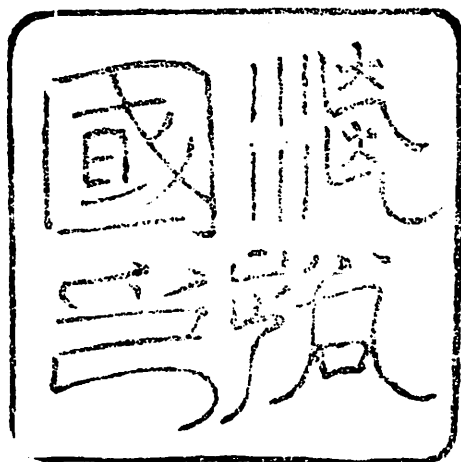
承和十二年十二月五日文書所捺

67 紀伊国印



仁寿四年六月七日当国在田郡解所印

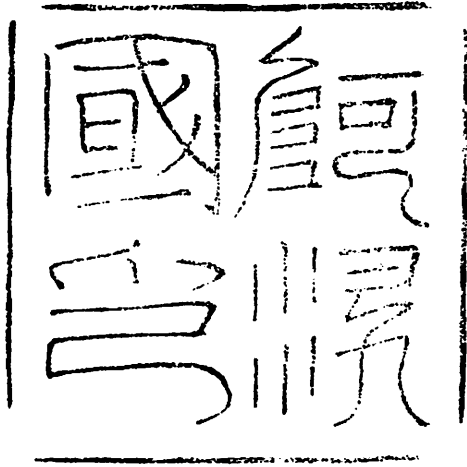
68 淡路国印



天平十年正税帳所印

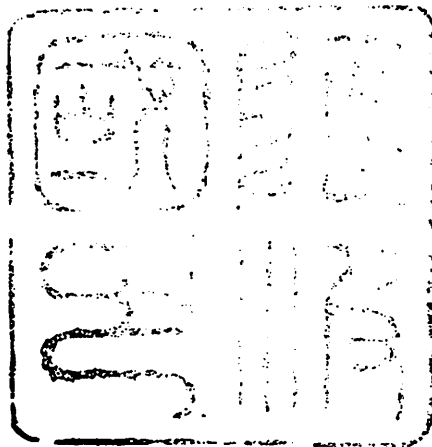


69 阿波国印



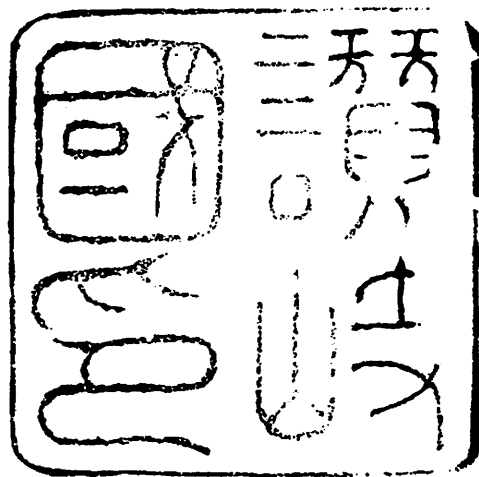
係年未審戸籍断簡所用

70 阿波国印



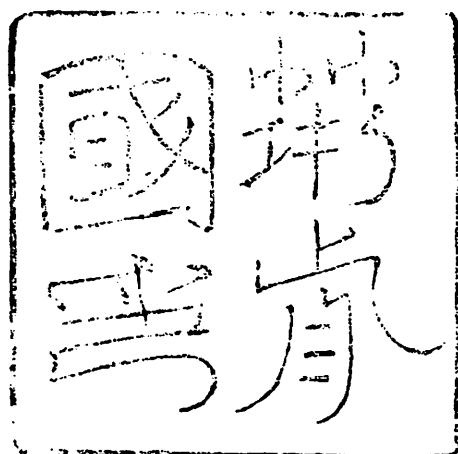
承和七年六月廿五日文書所印

71 讚岐国印



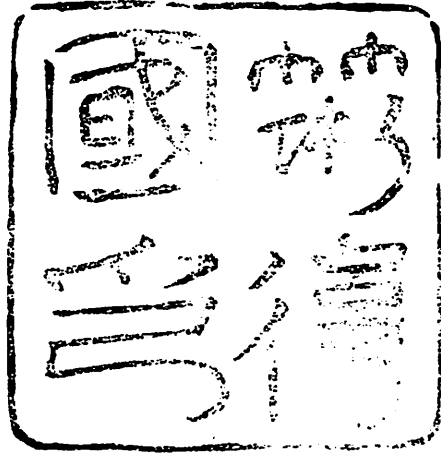
当国香川郡仏生山法然寺蔵文書所捺  
伝云天安中菅家当国在任中所改鑄

72 筑前国印



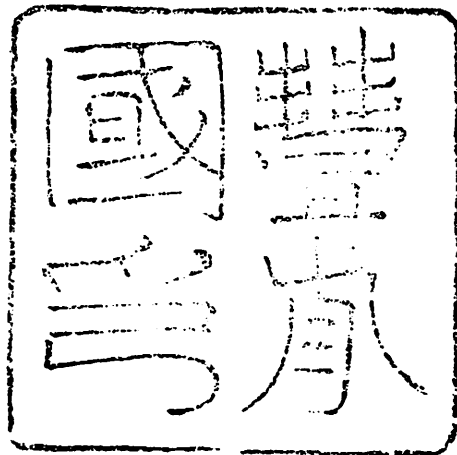
大宝二年戸籍所印

73 筑後国印



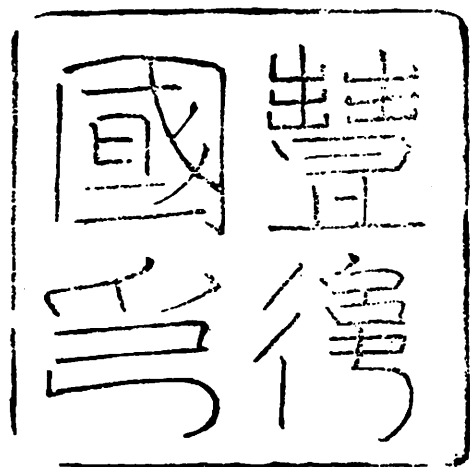
天平十年正税帳所印

74 豊前国印



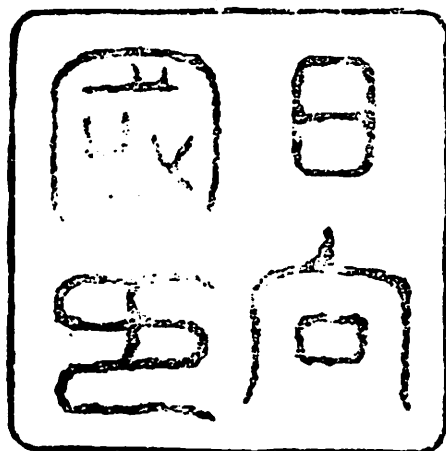
大宝二年戸籍所印

75 豊後国印



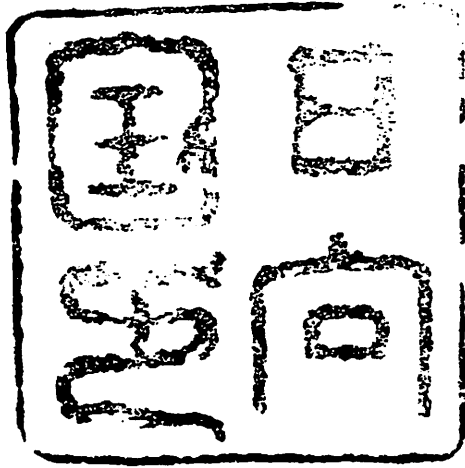
天平九年正税帳及係年未審戸籍断簡所用

76 日向国印



古摹本

77 日向国印



別本

78 薩摩国印



天平八年正税帳所印

守真按諸國印當時不見者二十一印其摹傳者都計六十餘種然互有異同正誤不可辨者甚多矣今不可考者暫存舊而俟識者之訂正耳即無印諸國如左

東海十五國之內

參河

武藏

上總

東山八國之內

飛驒

信濃

上野

下野

出羽

北陸七國之內

若狹

加賀

能登

山陰八國之內

伯耆 石見

山陽八國之內

美作

南海六國之內

伊豫 土佐

西海十一國之內

肥前 肥後 大隅 壹岐 對馬

通計二十一各國印章不傳深可慨歎也後世若有自靈社古利中所出之期者余伏而所祈望也

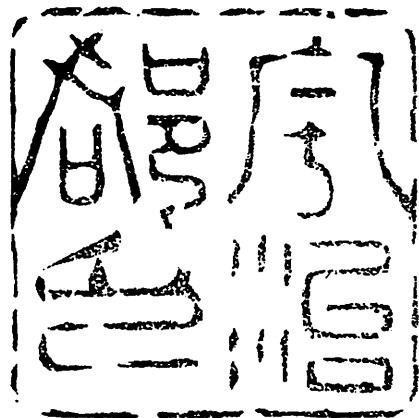
博愛堂集古印譜第五

諸郡印之部

長谷川延年摹鑄



1 宇治郡印 山城国



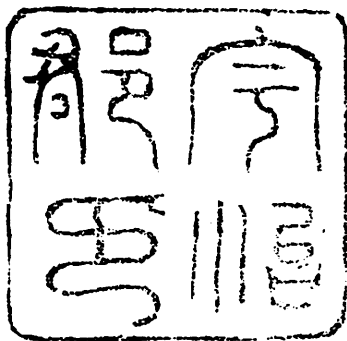
天平廿年九月廿六日加美郷堤田村沽券郡判所用

2 宇治郡印



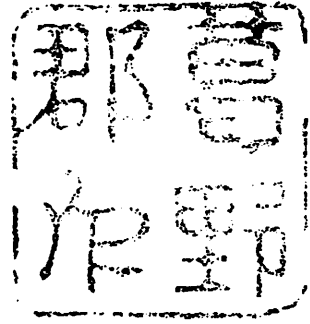
天平宝字五年十一月二日大国郷家地沽券郡判所捺

3 宇治郡印



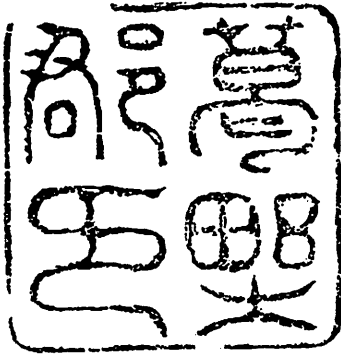
承和十四年六月廿七日文書所用

4 葛野郡印 山城国



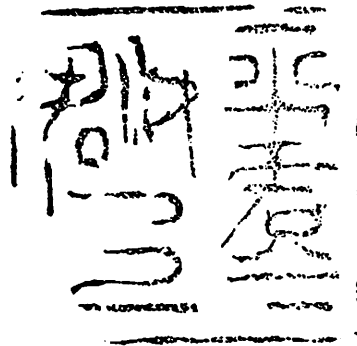
承和三年月日高田郷長解所捺

5 葛野郡印



天平宝字四年十二月二十一日正税牒捺印

6 平群郡印 大和国



天曆六年十一月廿五日田券所捺

7 宇陀郡印 大和国



天平元年大税牒仁寿三年十一月廿日田券所捺

8 宇陀郡印



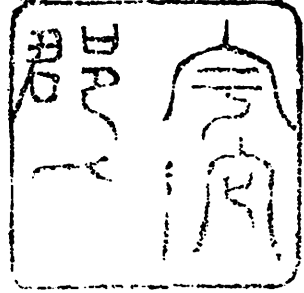
寛和三年二月十九日田券所印

9 宇陀郡印



永承五年十月弘福寺愁訴郡判所用

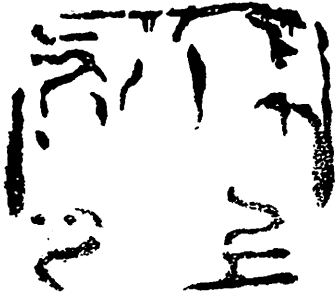
10 字陀郡印



古摹本

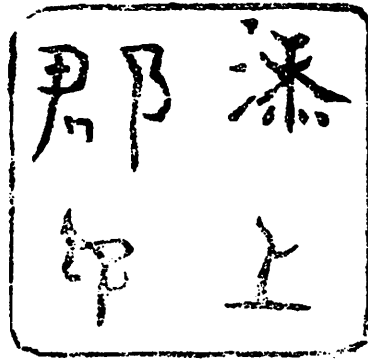
11 添上郡印

大和国



貞觀十四年十二月十三日延喜十一年四月十一日家地券所捺

12 添上郡印



正曆二年三月十四日文書所用

13 薬院庄印 添上郡



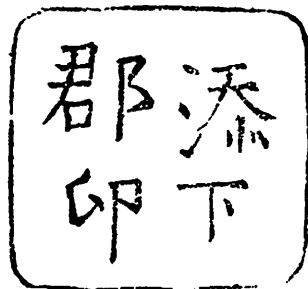
弘仁七年十一月廿一日添上郡春日郷家地券所捺 東大寺薬師院藏

14 添下郡印 大和国



大同元年十二月十日延喜三年三月八日田券所捺

15 添下郡印



異本 大同元年十二月十日田券所捺 法金剛院藏

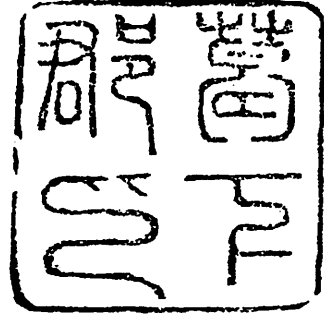
16 十市郡印 大和国



天平宝字五年十一月廿七日郡司解文所捺

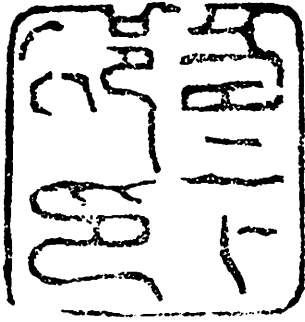
17 葛下郡印

大和国



天曆十一年八月十五日家地券所印

18 葛下郡印



古摹本

19 宇智郡印

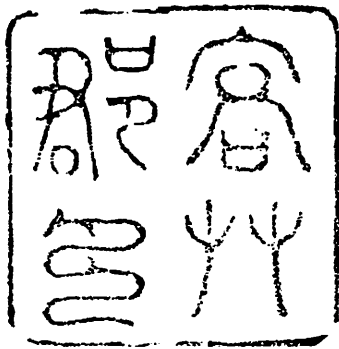
大和国



古摹本

20 高草郡印

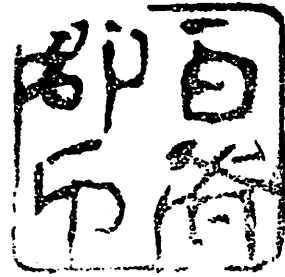
因幡国



天慶三年九月二日文書所用

21 百濟郡印

撰津国



貞觀七年九月十五日田券所捺

22 真壁郡印

常陸国



古摹本

23 坂井郡印

越前国



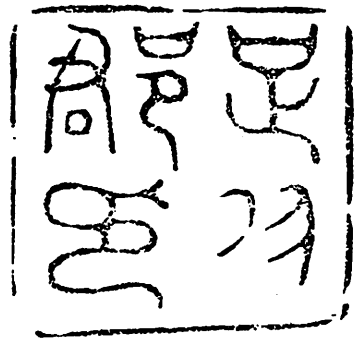
天平宝字二年正月十二日郡司解文所捺

24 足羽郡印 越前国



天平神護二年九月十九日郡司解文所捺

25 足羽郡印



古摹本

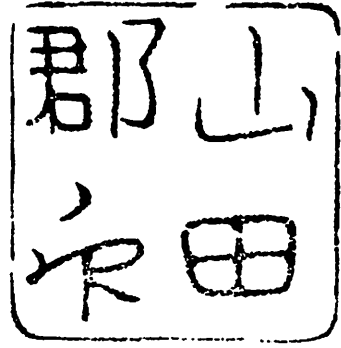
26 阿拜郡印 伊賀国



天平勝宝三年四月十二日拓殖郷田地沽券所捺

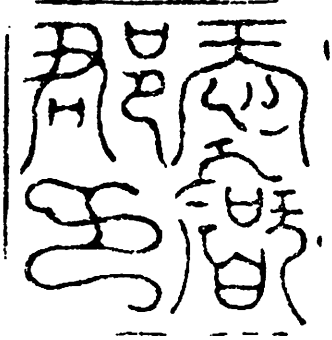


27 山田郡印 近江国



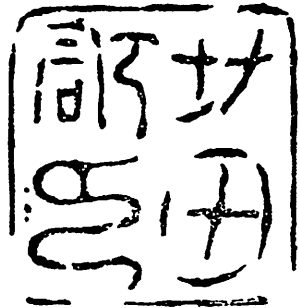
天平宝字七年十月廿九日田券所用

28 愛智郡印 近江国



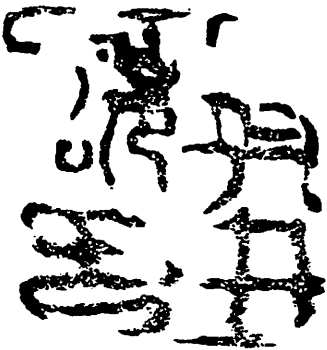
延暦十五年日田券所用

29 坂田郡印 近江国



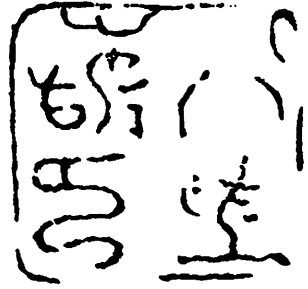
天長九年四月廿五日田券所用

30 浅井郡印 近江国



天長九年日田券所用

31 犬上郡印 近江国



近江国甲賀郡堀地所得

32 船井郡印 丹波国



延喜十七年四月廿七日田券所用

33 伊都郡印 紀伊国



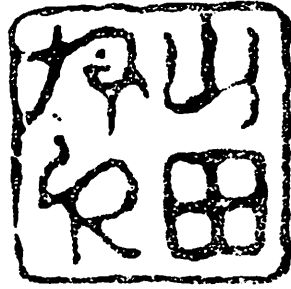
仁寿四年六月七日解所用

34 那賀郡印 紀伊国



承和十二年月日解所捺

35 山田郷印



36 伊保郷印



尾州大館氏藏印

37 浜守郷印



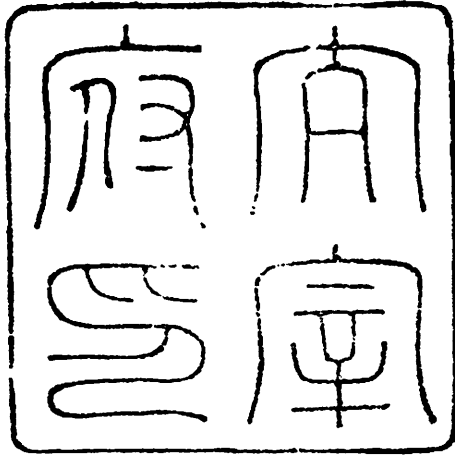
奥州足立郡杉田村土中所得印

博愛堂集古印譜第六

外衛印之部

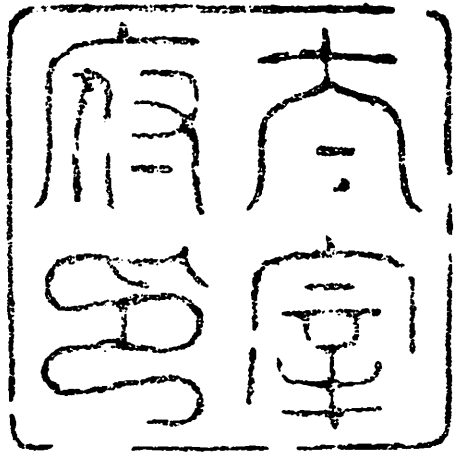
長谷川延年摹鑄

1 太宰府印



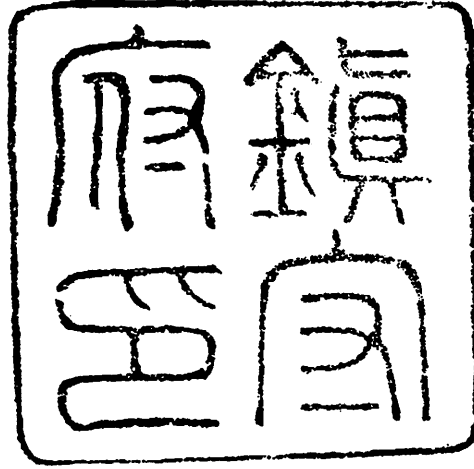
天平十七年八月己丑給太宰府管内諸司印十二面  
笠郡 古摹本  
府在筑前御

2 太宰府印



天慶三年十二月廿四日牒所用  
古摹本

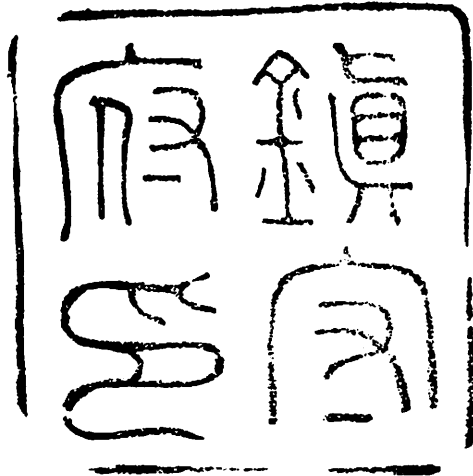
3 鎮守府印



陸奥州胆沢郡府址所藏惺窩先生所伝写

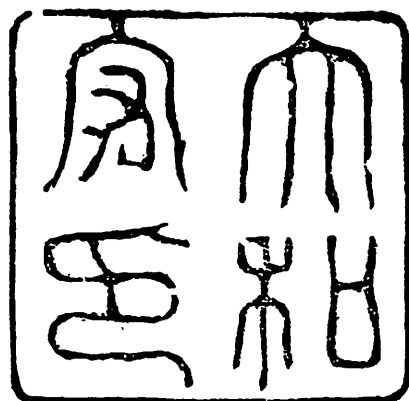
古摹本

4 鎮守府印



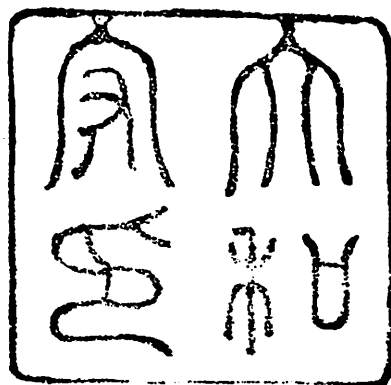
康平六年八月十三日造年料兵器解所用

5 大和守印



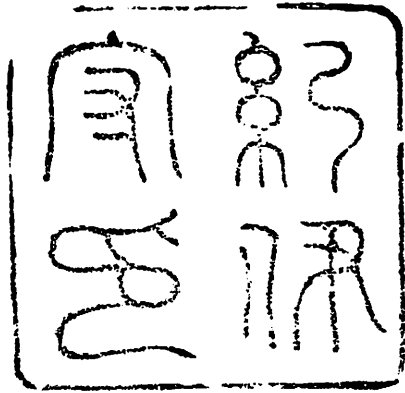
長和二年十一月九日大和国弘福寺牒所印

6 大和守印



別本

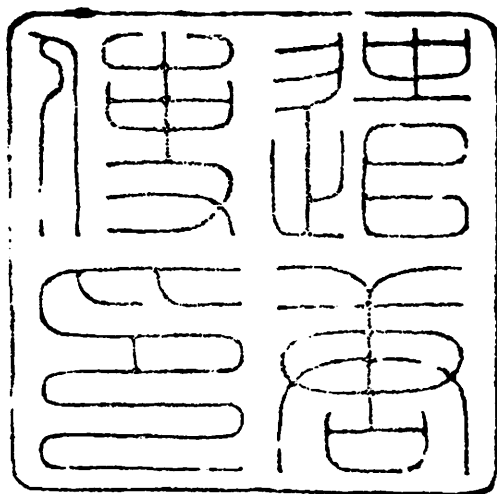
7 紀伊守印



長和元年十二月廿日國司牒合縫所用

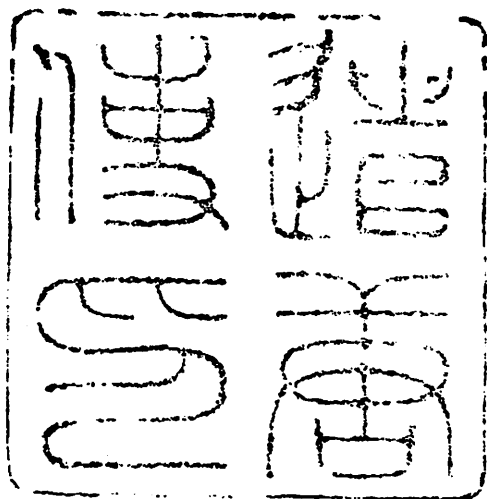


8 遣唐使印



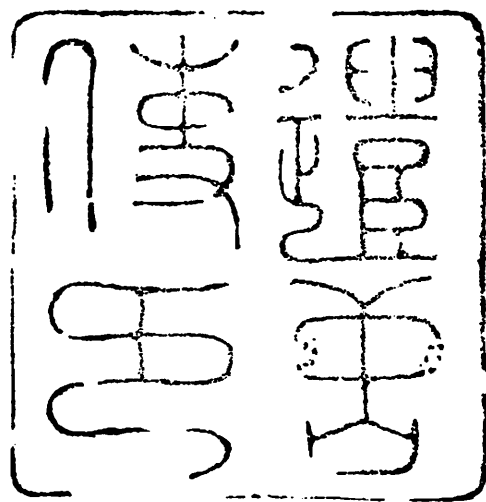
天平五年月日遣唐使牒所用

9 遣唐使印



天平五年月日遣唐使牒所用

10 遣唐使印



延曆廿三年五月十五日遣唐使連署所印

11 遣唐使印

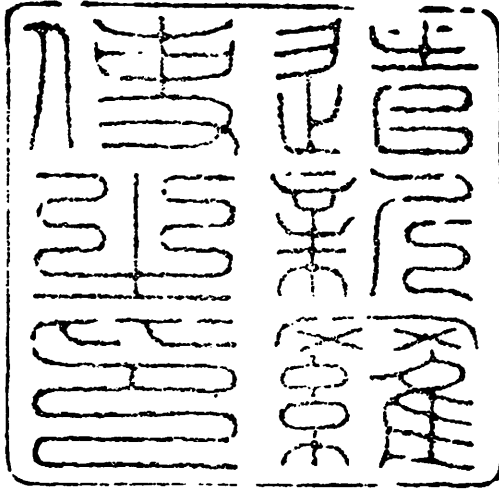


延曆廿四年山門最澄求法錄跋

同請來目錄並所印

飯室藏

12 遣新羅使之印



古摹本

博愛堂集古印譜第七

神社印之部

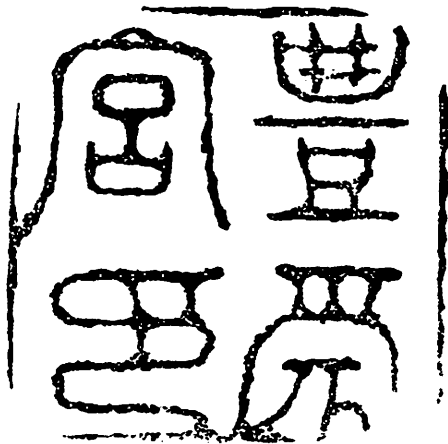
長谷川延年摹鑄

1 内宮政印

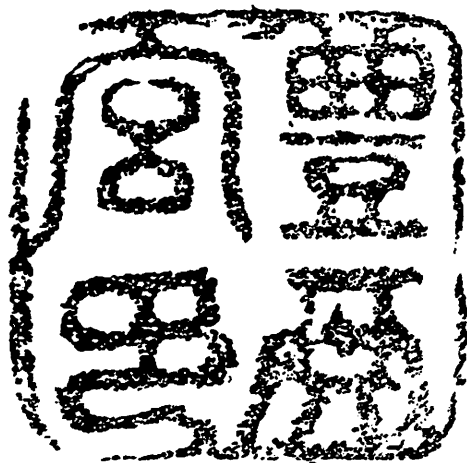


応徳元年七月十一日伊勢二所大神宮禰宜牒所用

2 伊勢豊受宮印

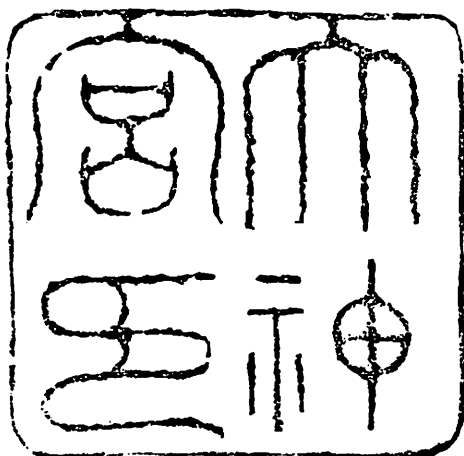


3 伊勢豊受宮印



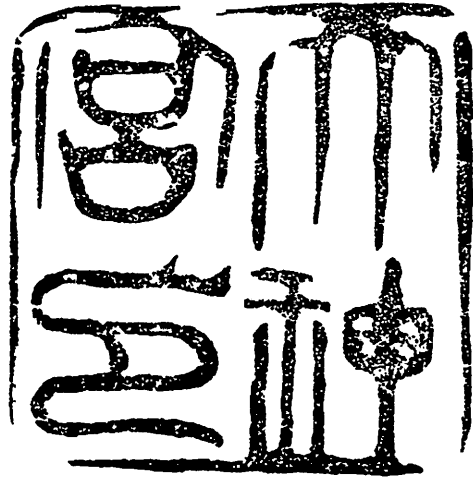
別本

4 大神宮印



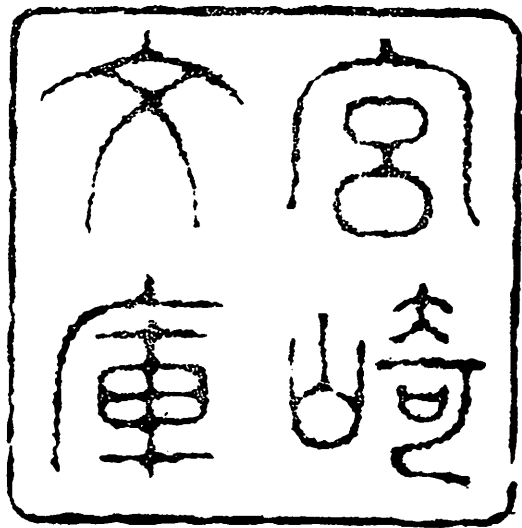
延長七年七月廿一日大神宮神民口分田坪付勘文所用

5 大神宮印



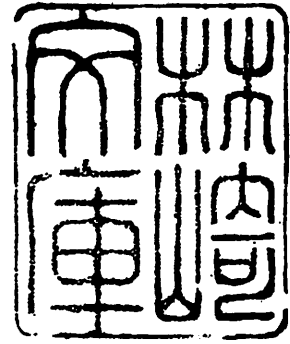
異本

6 宮崎文庫印



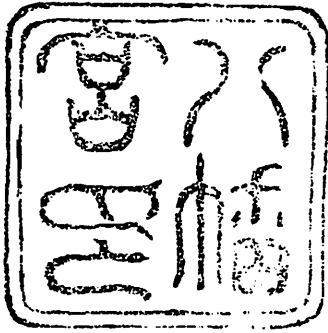
伊勢皇大神宮文庫所用

7 林崎文庫印

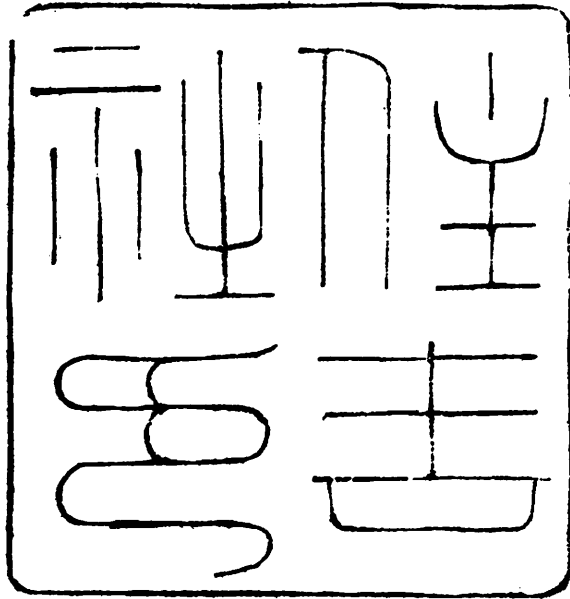


内宮藏書印

9 雄徳山八幡宮印



8 住吉社印



元文元年十二月四日文書所捺



10 雄德山神庫之印

雄德山神庫之印

楠正成懷紙及興國二年正行願文所印

11 売神祝印



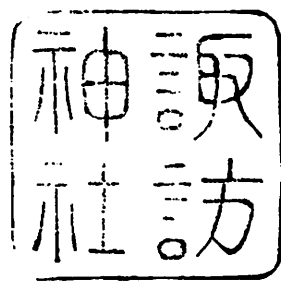
諏訪祠印 伝云平城天皇所賜

12 売神祝印



異本

13 諏訪神社印



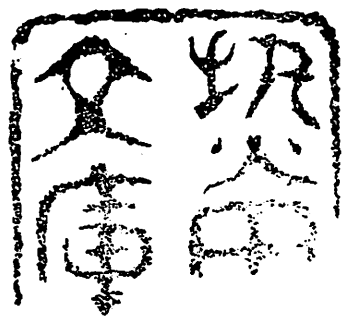
当社神宝目録所印

14 諏訪神社印

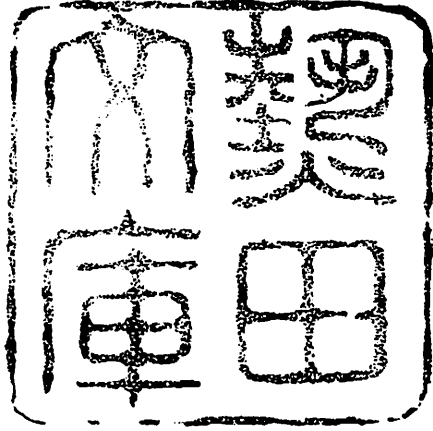


別本

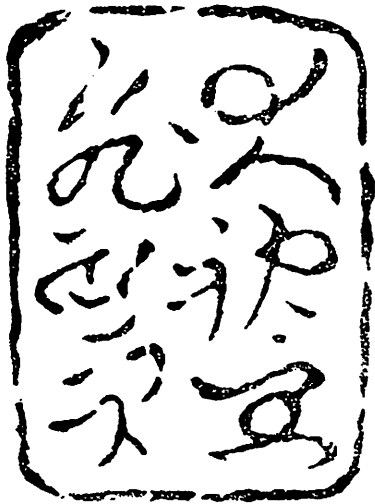
15 熱田文庫印



16 熱田文庫印



18 大和国飛鳥社印



春日社北新談義

成唯識論述卷一所捺



黒

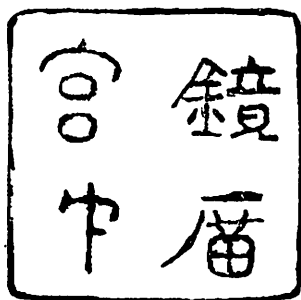
古經所印

19 巖島御社印



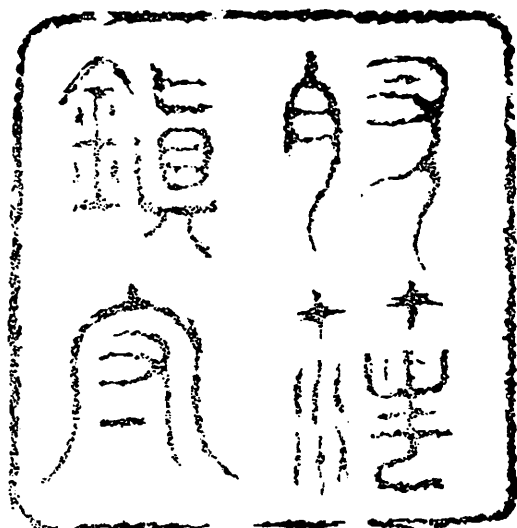
文治五年解文建曆二年六月申文同所印

20 鏡廟宮印



肥州松浦郡浜前村鏡社印

21 肥藩鎮守印



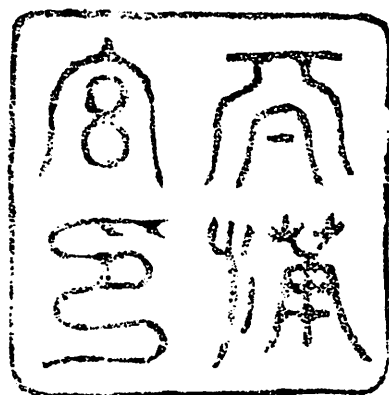
肥後国阿蘇宮大宮司室老印

22 大和社印

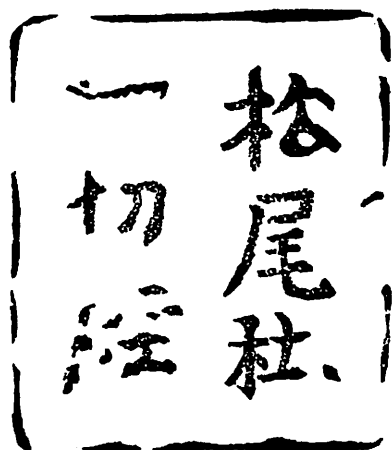


淡路国三原郡八太村二之宮

23 北野天満宮印



24 松尾社一切経印



25 比叡社印



文永八年四月一日小比叡社借馬牒所捺

27 丹波国一之宮印



黒

正一位出雲大明神所用

26 奥州一宮印



奥州都々子和氣社八槻近津宮



28 下野国一之宮二荒社印

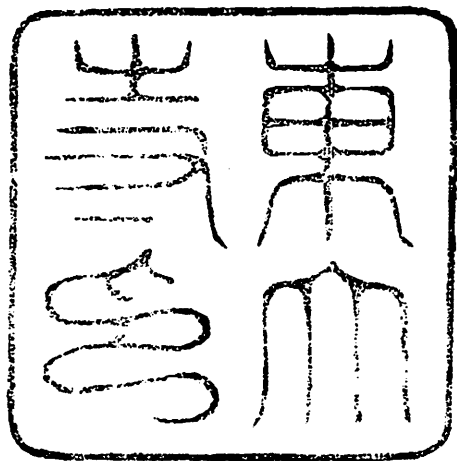


博愛堂集古印譜第八

寺院印之部

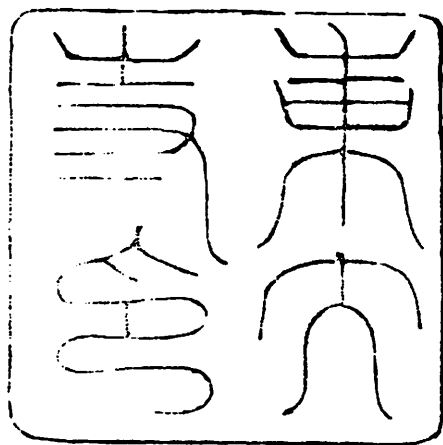
長谷川延年摹鑄

1 東大寺印



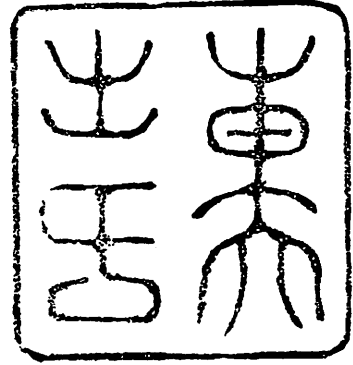
天平勝宝八年六月九日当寺境界檢使等連署及三綱牒等所用  
続日本紀光仁天皇宝龟二年八月己卯初令所司铸僧綱及大安葉  
師東大興福新葉元興法隆弘福四天王崇福法花西隆等寺印各預  
本寺云々按今諸印共觀四天王法花西隆新葉師等四印未觀之可  
惜也

2 東大寺印



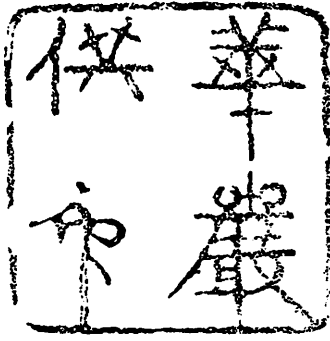
天平宝字五六年文書八通共所用  
三代実録貞觀六年三月八日光是律師法橋上人位最散等申牒起  
請四支云戒壇院設印捺於戒牒 太政官処分依請但其印文便可  
用東大寺印 正曆二年三月十四日

3 東大寺印



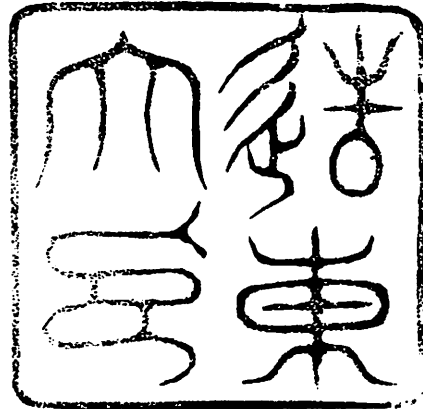
寛治七年十月十一日温室施入帳所印

5 華嚴供印



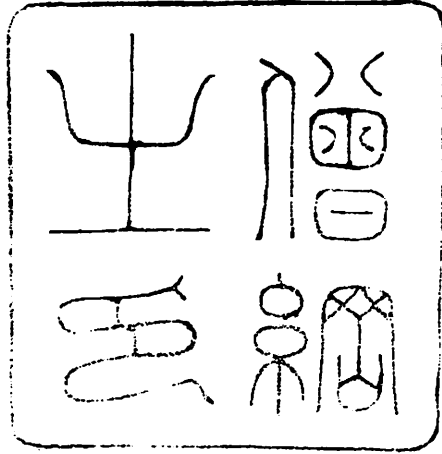
東大寺華嚴略疏刊定記所印 年曆不詳

4 造東大印



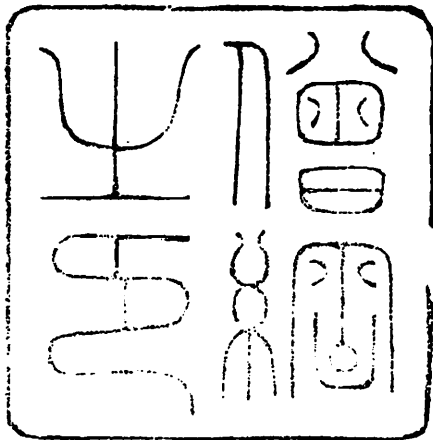
永曆元年八月日文書及長保四年九月十九日同所用

6 僧綱之印



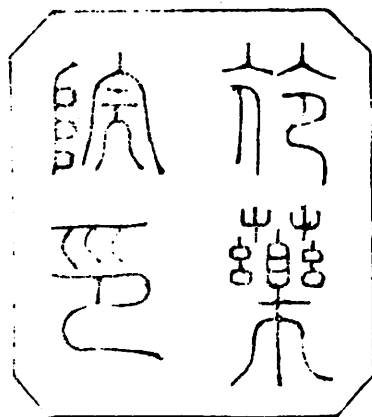
承和五年正月廿六日東大寺僧綱牒所用

7 僧綱之印



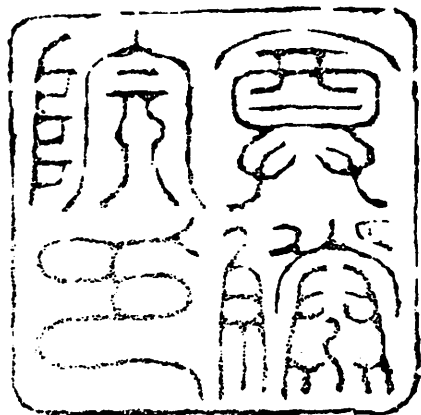
貞觀十二年同僧綱牒所用

8 施葉院印



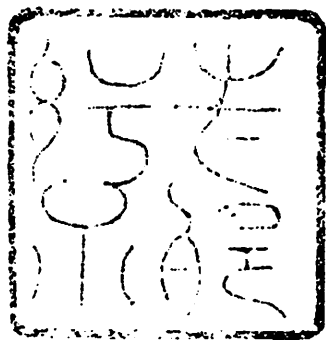
長治二年十二月十二日東大寺施葉院牒所印

9 尊勝院印



東大寺尊勝院銅印一枚鼻鈕 村上天皇所賜

10 東大寺按察家牒印



延喜十三年八月東大寺按察家牒所用

12 東寺大殿印



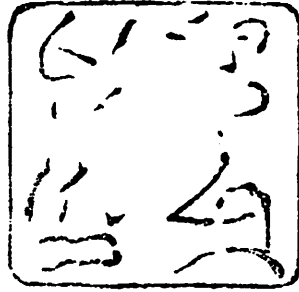
天平宝字三年六月廿八日文書所用

11 造崇福印



延曆二十二年冬十月丙午創崇福寺者先帝之所建也

13 東寺房牒連署印



14 東寺綱印



天平宝字六年七月廿九日東大寺三綱送造東大寺司牒



15 造東寺印



宝龜二年九月五日牒所捺  
当寺造寺司印

16 造東寺印



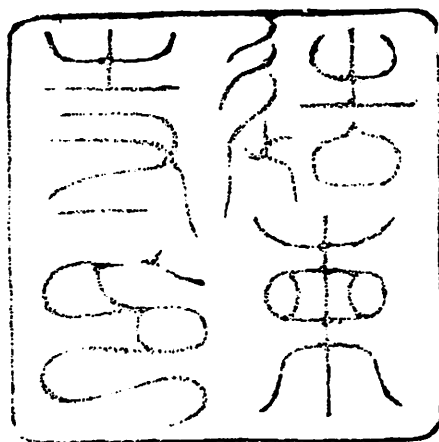
天平勝宝四年十月廿五日当寺牒所用  
伝蔡小異

17 東寺經所印



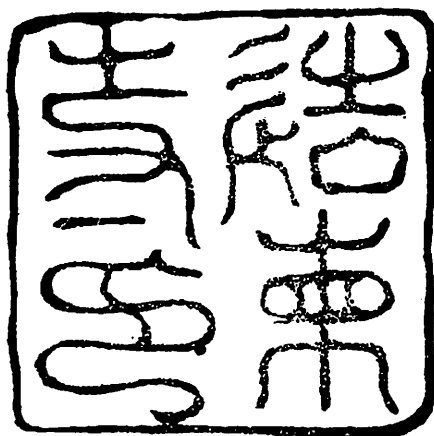
延喜十二年月日写經捺印  
以上東大寺之印

18 造東寺印



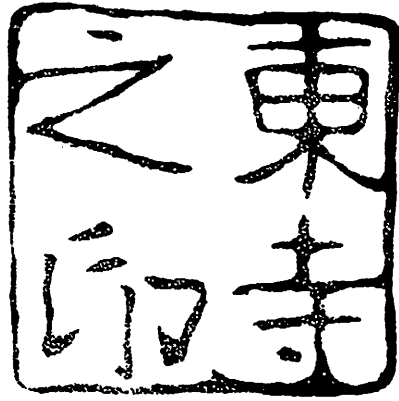
長保四年九月十九日当寺伝法供奉牒所印

19 造東寺印



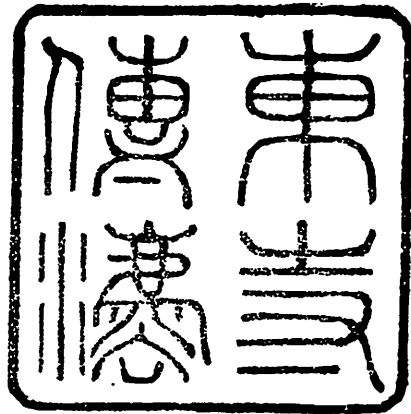
桓武天皇之時所鑄

20 東寺之印



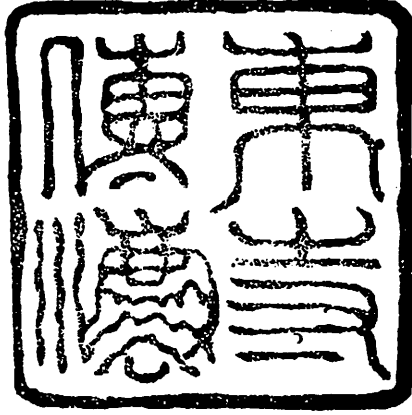
桓武天皇之時所鑄  
東寺藏印

21 東寺伝法印



長保四年九月十九日当寺伝法供奉牒所印

22 東寺伝法印



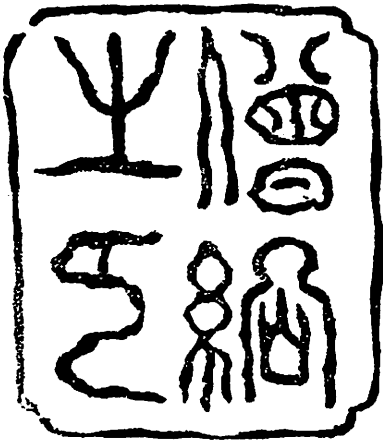
弘法大師之時所造云

23 東寺司政印



延曆廿三年六月廿日文書所用

24 僧綱之印



建武元年九月楠正成書東寺八幡宮系譜所印 東寺宮野氏藏

25 左大寺公文所印



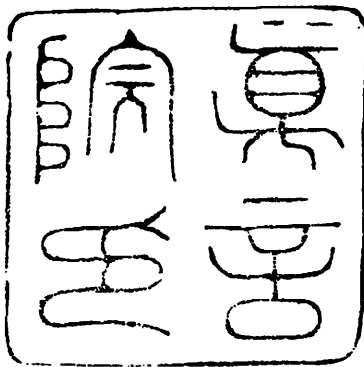
自足利家季世至今所用 東寺所伝

26 東寺穀屋方所用木印二



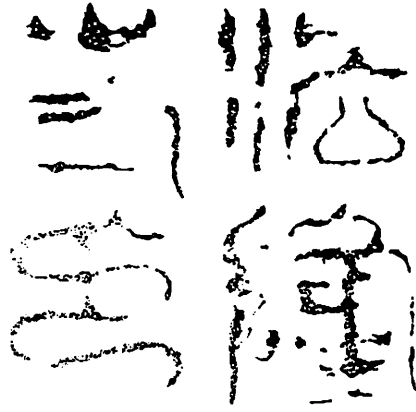
天正年間東寺蟻川氏文書所捺

27 真言院印



長曆元年六月廿三日東寺別当牒所用

28 法隆寺印



推古天皇所賜銅印今現所存

29 法隆寺印



仏經及器用所印

30 鵜寺倉印



光仁天皇所賜

法隆寺所藏

31 中臣寺印



寺在大和国宇治郡大原村

32 延曆寺印



延曆四年四月六日僧最澄入唐明州台州過所合縫所印

33 延曆寺印



西塔正觀院預中補任及度牒所印



34 延曆文庫印



今伝為錦小路殿珍玩

35 延曆文庫印

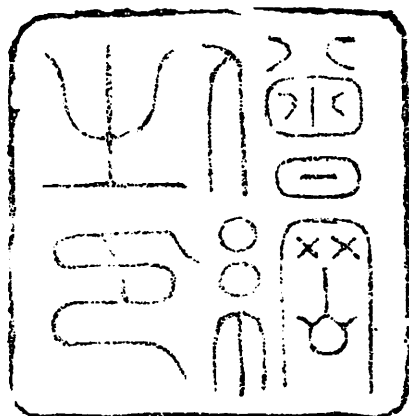


36 延曆寺印



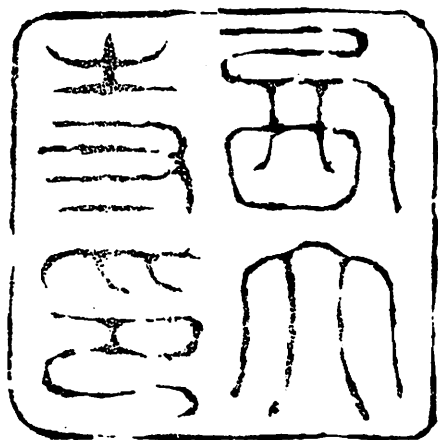
当寺今所用印

37 僧綱之印



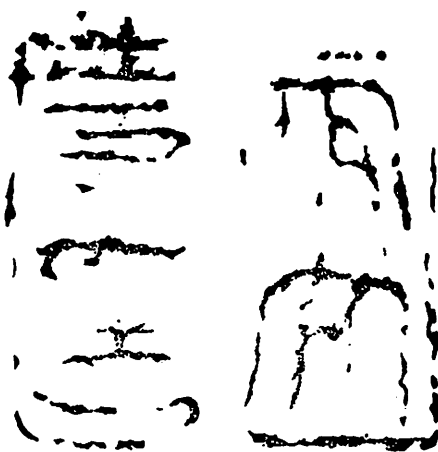
仁和寺  
粟田宮藏

38 西大寺印



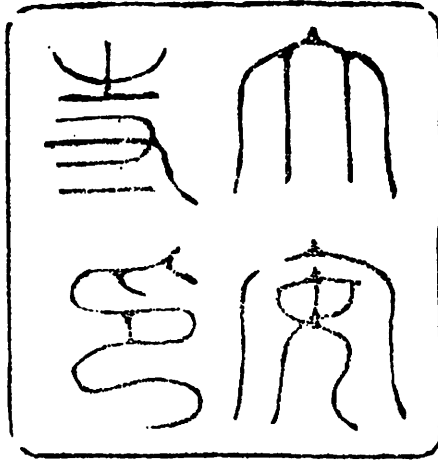
当寺古經所印 年曆不詳

39 西大寺印



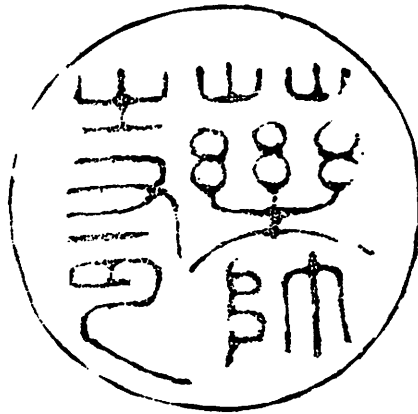
此印近世或得之骨董店印鈕不存可惜

40 大安寺印



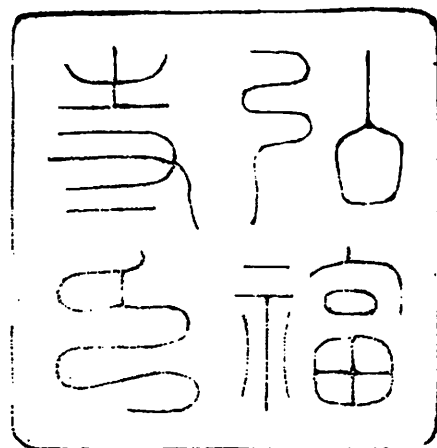
天平二十年当寺流記資財帳所捺

41 藥師寺印



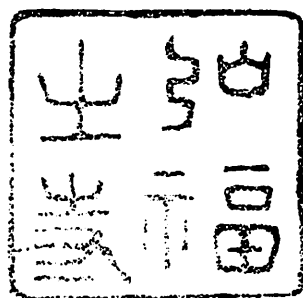
魚養書大般若經所印

42 弘福寺印



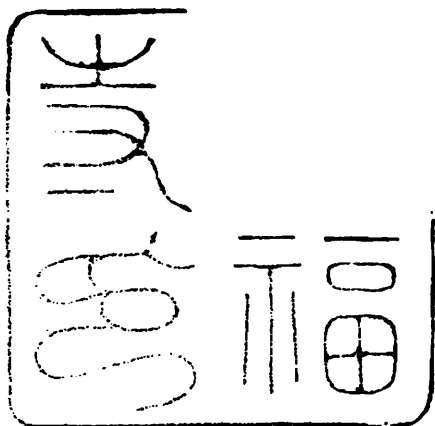
天平七年十二月田所印

43 弘福寺印



天平廿年二月十一日当寺牒所捺

44 興福寺印



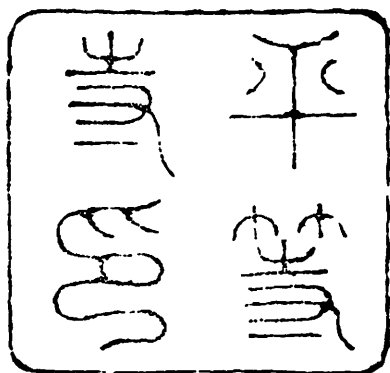
古摹本

45 興福伝法印



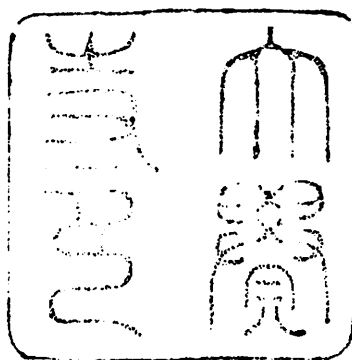
文書所捺  
聆涛閣藏

46 平等寺印



寺在太秦広隆寺之西 一説因幡葉師也法輪寺年代記

47 大覚寺印



寛平九年六月廿三日近江州金勝寺官符所用

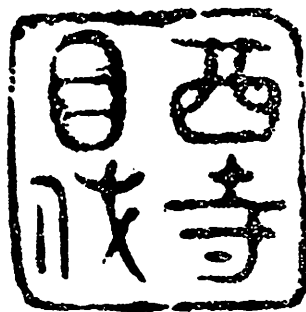
48 西寺政所



黒

大般若経合縫所用

49 西寺目代印



山田氏所藏印

50 百濟寺印



北条氏所藏印

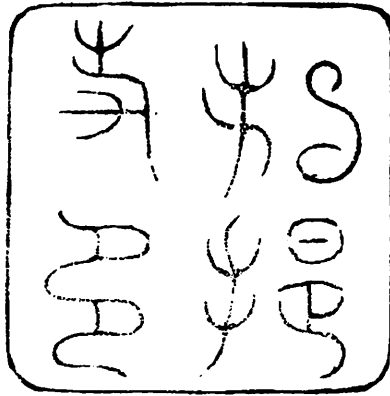
51 普光寺印



神護景雲四年五月八日当寺牒所用  
按普光寺河内大県郡高井田村一名井上寺又名鳥阪寺ト云今亡



52 唐招提寺印



弘仁十四年十二月九日仁寬封

53 唐招提寺印



54 法勝寺印



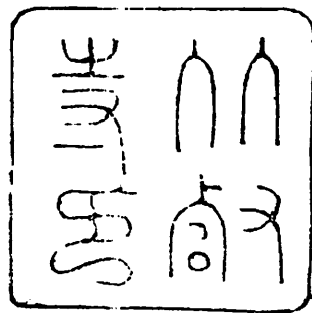
按六勝寺之一  
古摹本

55 法勝寺印



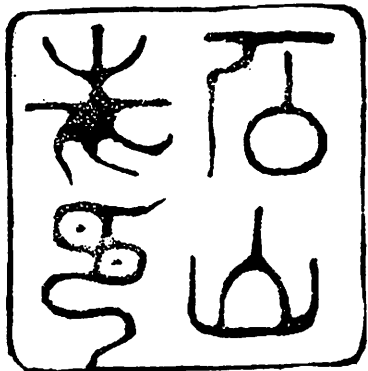
古摹本

56 比叡寺印



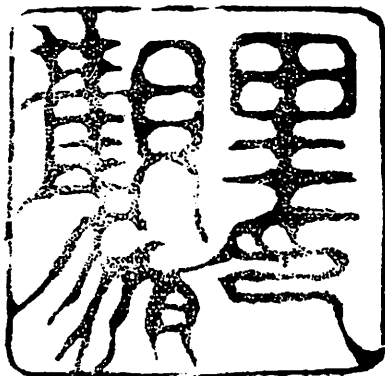
大同元年十月廿三日僧空海入唐得来自録所印

57 石山寺印



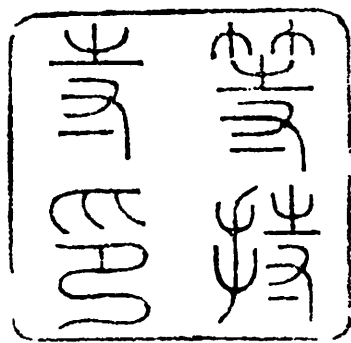
藏經所印

58 觀世音寺印

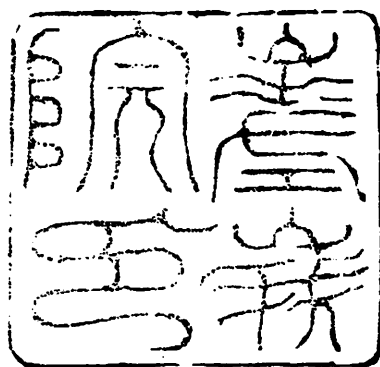


寬治八年二月九日保安元年六月廿八日長元六年同八年承保四年長德四年等牒所用

59 等持寺印

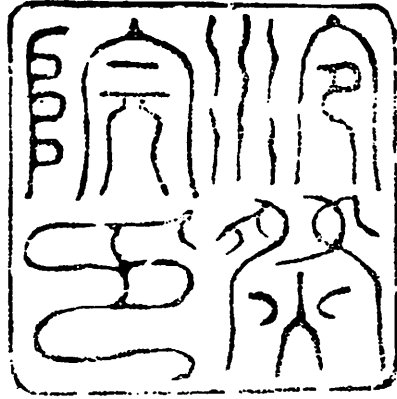


60 嵯峨院印



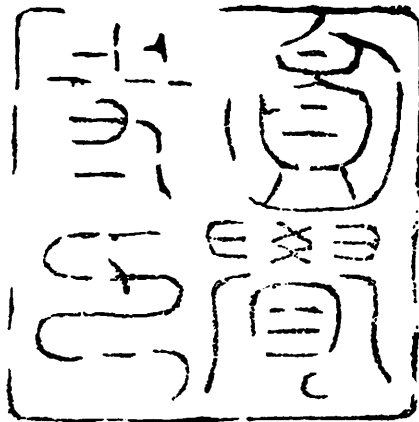
白川家藏文館詞林零本所印

61 冷然院印



校書殿写弘仁十四年歲次癸卯二月為冷然院書

62 円覺寺印

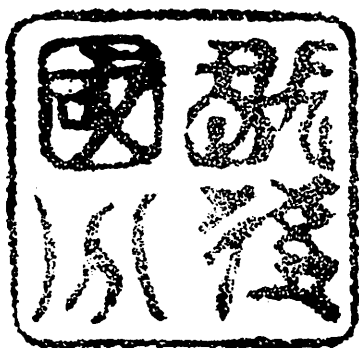


鎌倉五山之内

63 八幡弥勒寺印

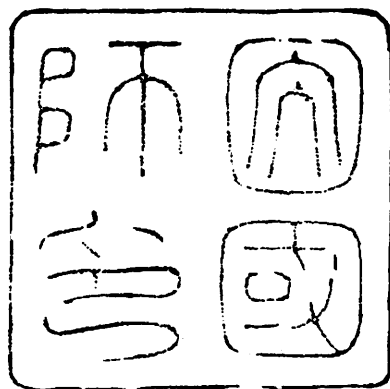


64 越後国分寺印

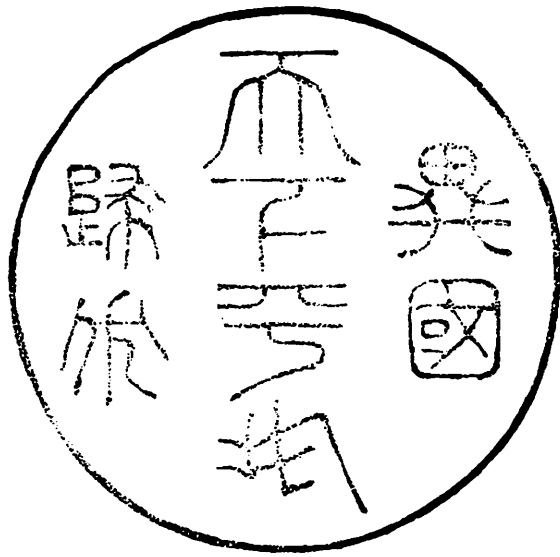


越後国安国山五智国分寺堂司

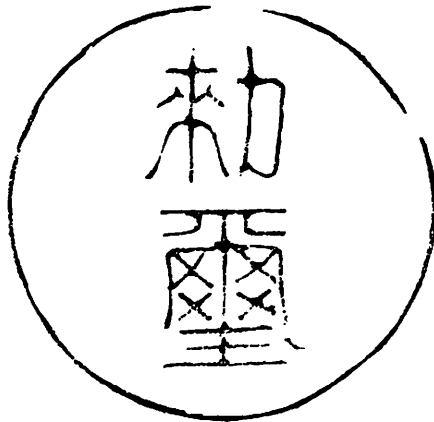
65 因幡国師印



天平神護元年四月廿八日因幡国々師牒所用

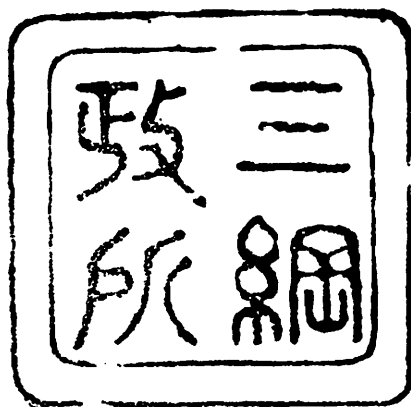


天下平安異國歸來



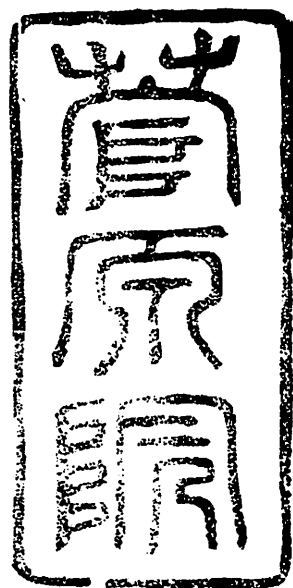
勅璽

67 三綱政所印

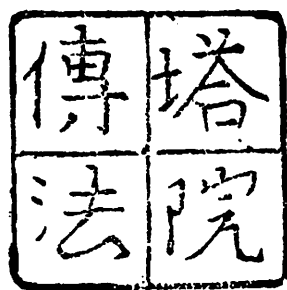


棋州住吉神宮寺  
按三綱者上座寺主都維那謂之三綱諸大寺皆有三綱

68 菅原院印

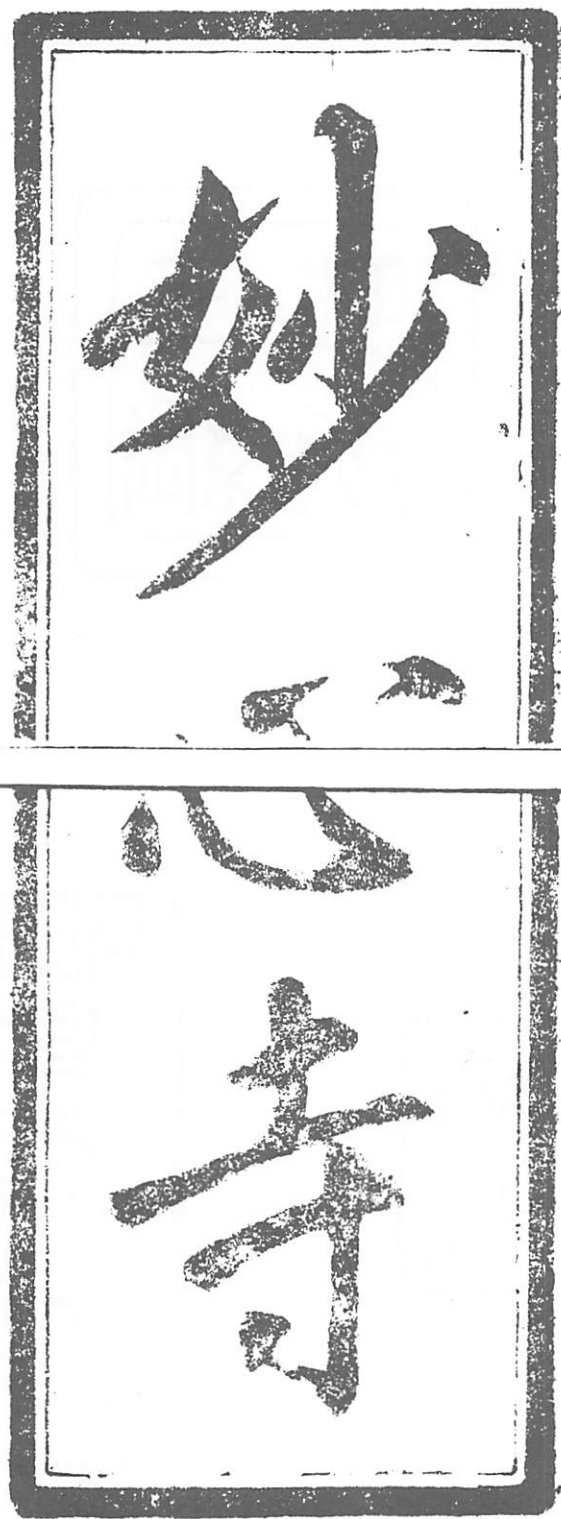


69 塔院伝法印



古写経文所印





71立山岩峯寺印



74隆池院印



天平勝宝元年十一月十三日坪勘録奥書所捺印 字久米多寺

72羽州郁山郡山寺藏印



清和天皇所賜

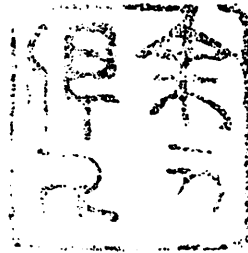
73 奥州会津惠日寺蔵印四



平城天皇所賜



弘仁元年嵯峨天皇所賜



天長二年淳和天皇所賜



承保年間白川天皇所賜

博愛堂集古印譜 解題

今回の影印（改編）の底本に用いた、国会図書館蔵青山文庫旧蔵本は、編者長谷川延年の手沢本であるが、他本に比べ、やや特異な内容を持つ。それゆえ本稿においては、むしろ長谷川延年が想定した普及版について述べることにしたい。

編者の想定した普及版——このいささか熟さない表現について、まず説明しておかなくてはならない。普及版は一五巻一四冊であったと思われる。が、管見の及んだ限りでは、そのような形態を十全に備えた伝本に出合わなかった。稿者の努力の至らなかつたこともさりながら、印影を実鈴し、解説文を手書するという、本書の造本上の性格に由来するものでもあろう。つまり、伝本一点ずつが手作りだつたからなのである。それゆえ、普及版の典型を捜し出すことは、不可能に近い。むしろ、編者の想念のうちにあつた普及版を、諸伝本の比較対照の結果として復元してみることにしかできない。

そして、それは次のごときものであつた。

\*

装訂 中本一五巻一四冊（巻六、七は合冊）。二〇・七×一四・五センチ。

チ。花ざれ紫色。綴糸緑色。

表紙 香色朽木雲模様押し。

題簽 「博愛堂集古印譜」 表紙左肩、くちなし色染紙に版刷。単郭一

五・九×二・三センチ。外題下部に巻数を書込む余白がとつてあ

る。

見返

くちなし色染紙に双辺の匡郭があり「楓洞長谷川延年摹刻／博愛堂集古印譜／博愛堂蔵印」と三行に記す。巻一、五、九、十四、十五にあり、いずれも版刷。一行目上部に大形円印（巻により異なる）、三行目下部に「博愛・図書」の印を実鈴、いずれも朱文。また二行目下部に「中編全三冊」（巻五）、「下編全五冊」（巻九）、「増補全一冊」（巻一四）の朱印を捺す。この印記により、本書が上中下三編に加えるに増補をもつてする構成であつたことが知られる。図版参照。

内題

（扉）

「博愛堂集古印譜」（凡例、目録）、「博愛堂集古印譜第一（十三）」

〔図版〕 第一四巻見返



版心 「博愛堂集古印譜 茂身知乃保良」ただし凡例の丁、目録の丁に

は、「博愛堂集古印譜」の箇所を「凡例」「博愛堂集古印譜目次」とあり、序文の丁には「自序」、跋文の丁には「跋」とのみあって、「茂身知乃保良」の六文字なし。以上いずれも版刷。「もみちのほら」は延年の別号楓洞の訓読。

匡郭 双辺。一五・三×一〇・九センチ。版刷。

丁数 卷一 14丁 卷二 17・5丁 卷三 18・5丁

卷四 39丁 卷五 18・5丁 卷六 8丁

卷七 14丁 卷八 31丁 卷九 19丁

卷一〇 33・5丁 卷一一 33・5丁 卷一二 26・5丁

卷一三 18丁 卷一四 45丁 卷一五 25丁

以上いずれも匡郭を持ち、印影または解説文を載せる丁のみの数。

別に卷一に自叙、凡例、目録各1丁、卷一三に跋1丁のほか、各卷に扉1丁(卷一三には附録のものを加えて2丁)あり。

丁付 なし。

本文 各半丁右肩に印名(印文、所蔵者名、使用者名などに依る)があり、余白に採取資料名を主とした注記、解説があり、ともに編者自筆の墨記。ただし、次の丁は版刷。

自叙、凡例、目次(卷一)、跋(卷一三)、秦始皇帝印璽の解説(卷一五24ウ)

また、解説文中に頻出する「聆濤閣所蔵」「古摹本」「或所蔵印」等の語を印捺する伝本もある。それ以外の箇所は、たとえば第一

四卷巻末の国印一覧のごとき長文に至るものを含めて、筆写。印影は模印を作ったの実鈴。おおむね各半丁に一印を配する。

各巻所収の印影数は次のとおり。

第一 御璽之部 17顆

卷二 太政官印之部 21

卷三 八省諸寮印之部 40

卷四 諸国并倉印 78

卷五 郡并郷印 35

卷六 外衛印 12

卷七 神社印 27

卷八 寺院印 62

卷九 私印 42

卷一〇 武将印 25

卷一一 蔵経書印 70

卷一二 諸家蔵印 52

卷一三 烙印、附録外国印、全印鈕図 28

卷一四 増補印 100

卷一五 増補印 52

別に卷一二に鈕1図、側2図、卷一三に鈕8図、卷一四に鈕1図、卷一五に鈕3図がある。

刊記 なし。ただし自叙に「安政四季丁巳秋」、跋文(山川正宣)に「安政四年丁巳冬」とある。

諸本 管見に入ったもの、次の五本である。

国会本（別9/12）

一五冊

国会別本（辰/40）

一四冊

内閣文庫本（160/104）

一三冊（巻四欠）

神宮文庫本（美術88）

一三冊（巻四欠）

加賀文庫本（加賀5341）

一冊（巻一四）

完本は国会の二本のみである。ただし国会別本には問題がある。

巻四が入れ本と思われるのである。巻四の表紙は香色ではあるが無地、朽木雲の押出模様がない。また柱刻に、印捺によって「四」という巻数表示が加えられている。紙質、筆蹟も異なるようである。

また国会（別9/12）本が完璧な形かという点、必ずしもそうではない。この本が特殊な内容であることについては、後に述べる。管見に入ったそれぞれの伝本における落丁、誤記等の詳細は省略するが、次の二点だけは、是非言い添えておく必要がある。

すなわちその一は、神宮文庫本巻一〇10ウに「道」字印を貼紙し、巻一〇12ウに「式劔平天下」印を載せることである。この二印は他の普及版にはなく、国会蔵手沢本巻一五の巻末にのみ見えるもの（前号に印影を掲載済み。印影番号巻一〇の28・29）。なお「式劔平天下」印は現在では織田信孝のものとされている。

その二は、内閣本巻一一33ウに「浅草文庫印」と題して「浅草文庫」「如春（象）（絵）」の二印を掲げることである。この二印は他本はもとより、国会手沢本にもない。よってこの二顆の印影を国

立公文書館内閣文庫の許可が得られたので、配列の順序に違背する箇所ではあるが、今回の影印の余白となった4ページに追加して載せた。なお言うまでもなからうが板坂卜齋の印記である。

\*

次に管見に入らなかつた伝本について述べる。すでに言ったごとく「博愛堂集古印譜」は、一点ごと編者長谷川延年の丹誠を込めた手造りであつて、作られた部数は多くなかつたであろう。それゆゑ稀覯に属し、印癖を持つ者にとつて、垂涎のまゝであること、言を待たない。秘庫の奥深く蔵されるもののあることも、充分に予想される。それらのうちに右に述べた書誌条項のすべてを備えた完本も存在するにちがいない。

それとは別に、編者の想像だにしなかつた伝本も存在するものがある。たとえば次のような伝聞もそのことを言う。

先般漫遊中、大坂生田百滴氏方にて長谷川延年輯博愛堂集古印譜、近年新二押捺せしと見ゆる白紙刷大本四冊？見申候。段々相尋候処、この長谷川のとハ、今も八尾駅ニありて其刻印等存在しあり。生田氏先年つてを求めて同家へ出張、一週間程滞在して悉皆押したるもの、由、此印、小さき櫃ニ一杯有之由……配本のもの故、大本小本種々有之候事と存候。百滴氏、長谷川氏の居処ハ秘して語り不申候……（明治三九・一二・一 林若吉）

中山共古宛林若樹書簡の一節である。金子和正、大内田貞郎氏「共古翁雅友帖抄」（大谷篤蔵氏編「近世大阪芸文叢談」昭48 大阪芸文会）から引いた。

生田本は大本四冊であつたとされるところからして、すでに普及版と異なるが、さらに右の引用では省略した箇所、それが罫で田字型に区切って一ページに四顆の印影を収めるものであつたことも記されていて、体裁をまったく異にするものであつたことがわかる。

また、右の書簡から、当時の好事家が、この印譜の入手に腐心し、同時に広布を阻んで稀覯性を保持しようともしている様子が伺われる。その結果、事実とはかけ離れた、博愛堂伝説とも称すべきものすら生じる。若樹書簡によれば、生田百滴は延年の遺族のもとに残された櫃一杯の刻印を用いて押捺したことになるが、実はこの印は延年八二歳の明治一七年に、同郷の木村篤処に、稿本といっしょに譲渡されていた(水田紀久氏「長谷川延年」「河内文化」一二号、昭34・5)のであるから、遺族であるはずがない。博識の林若樹にしてこの事実は知らなかつたことになる。

国会青山文庫旧蔵本また異例に属するものであると先に述べたが、そのことについて説明をする。

この編者手沢本は、印影ごとに添える解説文が、ときとして詳しい。たとえば巻一第一図「天皇御璽」印に他本は「大宝三年七月廿日勅書所印」と記すのみで、「按公式令曰……」以下はない。これに類する備忘的な記事が多く、まさに手沢本の面目躍如たるものがある。また他本に比べて印影の数が多い。各巻の巻末だけでなく、ときとして各半丁一印という原則を破つてまで追加が行われ、その結果、すでに中央に印影がすわっているページの余白に、押込むように追加され、一面のバランスを

崩すことも少なくない。

それらの追加は、しかし、他本に載せない純然たる追加ももちろん存在するものの、ほとんどが巻一四、巻一五の増補の巻に載るところとの重複であり、印影の総数は多いが、実数がそれほどふえているわけではない。

このことが何を意味するかを、これも他本には欠く「総目録」一冊が説いてくれるもののである。「総目録」の全部を今回縮写によって影印したが、削除や追記が随所にあつて、はなはだ雑然とした感がある。それら加除の意味するところは、この「総目録」の巻立によつて明らかになる。「総目録」の巻立は、第一三巻までであり、増補二巻については立項がない。つまり増補の二巻に収めるところを、本編の分類に従つて、しかるべき箇所に挿入しようとする意向を汲みとることができ、また雑然とも思えた加除のそれぞれが、この意向に沿つたものであることを確認することができる。

増補二巻は、同類の印類がまとめられているものの、必ずしもある原則に従っているわけではなく、印影を入手するにしたがつて追加したものであろうことが推察される。この二巻のうち、第一四巻の見返に「増補全一冊」と銘うたれていることも、当初から二冊になるとは考えられていなかつたこと、したがつて、増補の巻が時間的経過の産物であつたことを証する。

国会本の「総目録」は、その意味からして、全一五巻一四冊である普及版利用のための引得としては必ずしも有効ではない。が、増補の巻を

解消して、最終的には十三巻の形に整備しようとする意図が編者にあつたことを証するもの、とすることはできる。それはまた、他の伝本との大きな相違であり、国会本の特色でもある。

普及版の自叙と跋文に、安政四年秋および冬という年記があるが、編者手沢本は「総目録」に奥書して

右総目録一卷校正 万延元年庚申冬 楓洞延年書

と言う。安政四年冬を一応の成立の時期とするならば、以後万延元年冬に至る一年の間に、補訂が企てられ、一三巻改編の意向が固まつて行った、という経過を推測することができる。

延年自刻の模印が、同郷の木村篤処の手に渡つたことはすでに触れたが、そのときに稿本もいっしょであつたという。印頼と稿本の譲渡は、出版を前程としたものであつたというが、この企画は不幸にも実現せず、今日に至つた。もし出版されていたら、延年の意を汲み、「総目録」に沿つて、一三巻に改編したものであつたにちがいない。今回われわれは、その意向を忖度し、あえて一三巻への改編を試みたのであるが、はたしてどれだけ編者長谷川延年の真意に近付きえたものか、心もとない思いがする。最後にあえてくりかえす。『博愛堂集古印譜』は斯界の集大成の書であるとともに、編者長谷川延年入魂の本でもある。印影の探求や考証に費した努力と歲月のこのみを言うのではない。一印ごとに実録し、解説文も自記する。稿本（編者手沢本）が実録自記であることは、驚くに値しない。世上に通行させようとした本すべてが、実録自記した一点入魂の手造りなのである。

影印改変・博愛堂集古印譜（調査研究報告）前号）正誤表

一〇三頁		水田紀久氏の御論号	考
一一一	巻九	朝野群載日天祿	曰
一一二		文書所捺干時	于
一一四		挙本有數種	幕
一一九		紀伊国糸群	郡
一一九		井筒屋得平兵衛	井筒屋得兵衛
一二三	巻十	按或曰	曰
一六〇	巻十一	大平記	太
一六二		弘和二年壬戌	戌
一七二	巻十二	江州栗太郎	郡
一八四		諸楽西京	諾
一九五	巻十三	一作鳥篆曰受命干天	于
一九六		親魏倭玉印	王
一九七		漢寿帝候関羽	侯
二一〇		乾隆十六年浙江	浙



博愛堂集古印譜總目録

御璽之部 年代次第改正印十七

天皇御璽 一大宗三年

全四 嘉祥三年

建武之寶 十一

皇帝官印 八長寛三年

天皇御璽 六宗立朝臣墓本

全十 兼安二年

全十四 康永二年

全二 天平勝興八年

全五 延長四年

全異本 十一

全異本 九兼元年

全七 全異本

全十一 建武元年

全十五 仁安二年



第二

太政官印之部 印二十一

太政官印

乾政官印

太政官印

太政官印

全

天皇御璽 十六長祿年間 全十七 全異本

延曆敕定璽 三

全

全異本

全

全

全

第三

八省諸寮印 印三十九

神祇官印

全

全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全

悠紀所印 <sub>二</sub>	主基所印 <sub>二</sub>
明字印	大司徒印
中務之印	式部之印
治部之印	兵部之印
刑部之印	民部之印
民部省印	全
內藏寮印	大藏之印
宮內之印	全
宮內省印	大膳之印
春官之印	左京之印

第四

右京之印	內侍之印
內侍之印	右近衛印
大學寮印	圖書寮印
全別本	主殿寮印
雅樂寮印	施藥院印
典藥寮印	勸學院印
造平安官城職之印	全
勸學院印	學館院印
官字印	

諸國印并倉印	中七十八
山背國印	全
山城國印	全
大倭國印	全
全	全
全	全
全	全
河內國印	和泉監印
攝津國印	伊賀國印

全	伊勢國印
志摩國印	尾張國印
全	遠江國印
駿河國印	甲斐國印
伊豆國印	相模國印
安房國印	下總國印
常陸國印	全
近江國印	全
全	全
美濃國印	陸奥國印

越前國印	全	越中國印
越後國印	全	佐渡國印
丹波國印	全	丹後國印
丹波倉印	全	因幡國印
但馬國印	全	全倉印
出雲國印	全	隱岐國印
隱岐倉印	全	播磨國印
播磨倉印	全	備前國印

備中國印	全	備後國印
安藝國印	全	安藝倉印
周防國印	全	長門國印
紀伊國印	全	淡路國印
阿波國印	全	筑前國印
讚岐國印	全	豐前國印
筑後國印	全	日向國印
豐後國印	全	薩摩國印

第五  
諸郡印之部 印三十七

宇治郡印	全	葛野郡印
宇陀郡印	全	平群郡印
全	全	全
添上郡印	全	添下郡印
藥院庄印	全	

全	十市郡印
葛下郡印	全
宇智郡印	高州郡印
百濟郡印	真壁郡印
坂井郡印	足羽郡印
全	阿拜郡印
山田郡印	愛智郡印
坂田郡印	淺井郡印
犬上郡印	松井郡印
伊都郡印	那賀郡印

山田郷印  
濱寺郷印

伊保郷印

第六

外衛印之部 印十二

太宰府印

全

鎮守府印

全

大和寺印

全

紀伊寺印

遣唐使印

全

全

造新羅使之印

第七

神社印之部 印二十九

内官政印

豊受官印

全異本

大神官印

全異本

宮崎文庫印

任吉社印

八幡官印

雄徳山神庫之印

賣神祝印

全

諏訪神社印

全

熱田文庫印

全

春日印

春日社北新談義屋印

飛鳥社印

嚴島御社印

鏡磨官印

肥薩鎮守印

大和社印

天満官印

松尾社一切經印

比叡社印

奥州一官印

丹波國一之官印

下野國一之官二荒社印

第八

寺院印之部 印八十一

東大寺印 三

全

全

造東大印

華嚴供印

僧綱之印

全

施藥院印

尊勝院印

按察家牒印

造崇福印

東寺大殿印

東寺房牒連署印

東寺綱印

造東寺印

全

東寺經所印	東寺之印	東寺傳法印二	東寺司政印	造東寺印二
全	真言院印	唯綱之印	左大寺公文所印	全教養所印
全	中臣寺印	全	延曆寺印	餽寺倉印
全	僧綱之印	全	延曆文庫印	延曆寺印
全	藥師寺印	全	西大寺印	延曆寺印
			大安寺印	弘福寺印

全	興福傳法印	興福寺印
全	大覺寺印	平等寺印
全	西寺目代印	西寺政所印
全	普光寺印	百濟寺印
全	石山寺印	招提寺印
全	等持寺印	法勝寺印
全	冷然院印	比叡寺印
		觀世音寺印
		嵯哉院印
		圓覺寺印

八幡弥勒寺印	越後國分寺印
因幡國師印	鹿嶋根本寺印
全	三綱政所印
菅原院印	塔院傳法印
妙心寺印	立山岩峯寺印
羽州山寺立石倉印	奥州惠日寺印
隆池院印	

第九

私印之部 印六十一

酒人内親王印	伊都親王印二
鎌足公印	源滿仲公印
藤原忠平公印	藤原賴長公印
秦永岑印	小野道風印
生江息鴻印	鳥豊名印
畫師池守印	足万呂印
桃尾井磨印	和氣種成印
菅氏通真印	日野有國卿印

渡邊充印  
 藤原有道印  
 藤原藤房卿印  
 大外記中師英印<sup>二</sup>  
 清原枝賢卿印<sup>孝位尊信印</sup>  
 聖一國師印<sup>圓山禪師印</sup>  
 弘法大師印<sup>二</sup>  
 尊純法親王印  
 宗像大宮司印  
 内家私印

政明印  
 源親房卿印  
 河内守廣信印  
 清原經賢印  
 玄惠法印<sup>二</sup>  
 然可翁印<sup>二</sup>  
 日蓮上人印  
 平部野朝臣印  
 利休居士印  
 元三論印

愛字印  
 詮傳燈印  
 永祿年間所用印  
 寛平年間林泰印  
 紀伊國系郡田恭所用印  
 山科郷藤原氏印  
 道字印

第十。直筆所別雜印  
 武將將帥印之部印<sup>四十</sup>  
 木曾義仲印

滿字印  
 東參論印  
 天文年中田券印  
 延喜年間田券印  
 福王神右盛忠印  
 遊行他阿上人印  
 加茂縣主氏之印  
 沙門契沖印

秀衡之印

楠正成卿印  
 足利義持公印  
 全 義滿公印<sup>五</sup>  
 北條氏政印  
 武田晴信印  
 織田信長公印<sup>五</sup>  
 豐臣秀次公印  
 浮田秀家卿印  
 小西行長印  
 淺野忠吉印

足利義詮公印  
 全 義教公印  
 足利家印<sup>二</sup>  
 北條家印  
 武田家印  
 太閤秀吉公印<sup>二</sup>  
 全 秀頼公印  
 加藤清正印<sup>二</sup>  
 福島正則印  
 中川久盛印<sup>二</sup>

本多佐渡守正信印  
 秋田入道覺知印  
 天正十年十月文書印<sup>姓名未詳</sup>  
 真田安房守昌幸印

板倉伊賀守重勝印

第十一  
藏經書印之部 印百二十六

野法泉寺文庫印  
足利學校印  
金澤梅名寺印  
法隆寺印 金青院印  
金一切經印  
金聖豐院印 東本寺印 寺講印  
興福寺春日官印  
談議屋印  
南都善光院古印  
金新印  
西大寺印  
海龍王寺印  
伊州新大佛寺印

建仁寺印  
金永源卷印 金靈院  
金永源書房印 普慈

金定惠院印  
高雄神護寺印  
法輪寺印  
善峯實相坊印  
慈照院印  
鹿玉院印  
教藏院印  
金剛峯寺印  
施無畏寺印  
金納涼坊印  
二尊院印  
梅熟軒印  
鹿花寺印  
萬福寺印  
仙光院印  
長余寺住生院印

拈尾高山寺印  
般若舟三昧院印  
萬壽寺印

東福寺中三聖寺印  
金龍眼卷印  
金普門院印  
金即宗院印  
南禪寺中濟北院印  
金靈源院印  
金慈雲卷印  
勸修寺大經藏印  
金金地院印  
仁和寺菩提院印  
妙覺寺日興印  
金日興印

金十靈蓋院印

親心寺根本院印	鹽穴寺印
筑前安樂寺印	桂宮院常住印
建長寺印	圓覺寺印
明王院印	五大堂印
天海藏印	釋迦院寶字印
寂照五符印	龜蔭謙齋印
唐坊印	政晟印
元麻印	義疏合楚捺印
頭真印	經字印
藤字印	忍性印

善光印	泰字印
善字印	多福文庫印 <small>壹寺</small>
少林書藏印 <small>南禪寺</small>	葉室庫印
菅家印	菅氏文庫印
清家文庫印	冷泉府書印
性宣藏書印	大谷藏書印
林崎文庫印 <small>神社之部</small>	松福寺經藏印
稱名寺藏經所捺印	經文所捺印
。陳福寺中林藏書印	金正光卷印
西源卷印 <small>壹寺</small>	少林院印

第十二

諸家所藏印之部 <small>印六九 又六共七十一</small>	山川氏藏印二
中井氏藏印 <small>今依</small>	深草善福寺藏印
。駱濤閣藏印 <small>五。</small>	勢州三重郡日永村土中所得銅印二
。仙波山中所得銅印	或所藏印
或所藏印	出所不知銅印
。全	或所藏印
雲州十神山麓所出銅印	。全
。或所藏印	

筑前雲野寺所掘得銅印	全
讚別寒川郡田井村所得鉄印	全
江州栗太郡所掘得印	全
或所藏印	全
全	全
全	全
全	全
。信州佐久郡清川村農家藏印	宗像大官司藏印
江都石川氏藏印	全屋代氏藏印



和州高市郡烏屋村上中所得印  
 或所藏木印二  
 小田原最乘寺印  
 畝火山下所得銅印  
 弘法大師自作煉印  
 鞍馬寺藏印  
 濱松藩田口氏藏印  
 尾洲大石氏藏印  
 山城國宇治郡堀土所得印  
 播州赤穂藩神吉氏藏印

菅原洞齋藏印。菅原洞齋藏印  
 藤原以文藏印  
 讚州藩某藏印  
 浪花白山氏藏印  
 全富札所用印  
 寺井氏藏印  
 全堀田氏藏印

備中倉敷岡氏藏印  
 笈氏藏印  
 紀州野呂氏藏印  
 全  
 全本字印  
 豊後同藩吉田氏藏印二  
 全  
 扶桑木所刻印  
 全  
 全別府津田氏藏印

全長尾小野氏藏印  
 三木氏藏印  
 或所藏印

第十三  
 烙印之部 印十八  
 法隆寺沈水香烙印  
 宣字升烙印  
 民部省古升烙印  
 太孝齋升烙印

内侍所古升烙印  
 文明年間古升烙印  
 全  
 備中西浦三宅氏藏古升烙印  
 或所藏古升烙印  
 播州姫路芥田氏藏古升烙印  
 備前小島町商家藏古琴烙印  
 豊太閤茶用水桶底烙印  
 山崎妙喜庵烙印二

元龜年間古升烙印  
 古升烙印  
 全  
 古榎匣烙印

附錄  
 外國印之部 印四十

秦始皇傳國璽龍文  
 全 鳥篆  
 漢劉玄德印  
 漢季叔固王印  
 全 壽亭侯印  
 魏魏王印  
 蜀劉璋印  
 蜀劉禪印  
 全 魏魏王印  
 全 蜀劉璋印  
 全 蜀劉禪印  
 全 蜀劉禪印

全 御書之寶  
 元文宗天曆之寶  
 明太宗廣運之寶  
 全 萬曆年中諭書所用印

全 晉府世子圖書  
 明成化欽文之璽  
 全 內府藏書印

清康熙御筆之寶

奉使之印

朝鮮國王之印

琉球國王之印

東埔寨固主之印

和蘭人書簡所用印

石川氏所藏西土印鈕圖

杉田氏所藏西土印鈕圖

宣賜之記

全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全

支那所製異體印鈕圖

通計 十三卷

卷首

序

自序

卷尾

浙江寧波府日本漂流民獲送信牌所用印

第十二補入

浪花高橋氏藏印三 全長田氏藏印

肥後熊本藩小山栗園藏錢印

駿州富士山淺間社修驗某藏銅印

京師喜村氏藏古銅印

高芙蓉所傳珠角印

第九補入

古筆極所別所法服印 賀茂縣主氏之印

吉格大臣印

阿部仲磨印

第十一補入

筑前博多聖福寺藏書印

慶雲常住印 相國寺中 禪昌寺常住印

蓮華菴印

孤陋菴印

一粟軒印

東福寺桂昌菴印

泉州堺南宗寺印

清任院印 建仁寺中

鎌倉雲下山茅覺院印

法隆寺生内院印

右總目錄一卷校正  
萬廷允年庚申冬

楓洞延年書

博愛堂藏